

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
計画の柱1 家庭・地域、保育所(園)・幼稚園、学校、図書館における子どもの読書活動の推進と環境づくり						
1 家庭・地域	(1)ブックスタート事業の取組	(子育て支援課) 4か月児とその保護者を対象に絵本を手渡すことで、赤ちゃんの保護者が「温かくて楽しいひととき」を持ていただき、絵本に出会ったことを機会に心の成長に役立て楽しんでもらう。 (文化課) ・絵本を介して赤ちゃんに語りかける子育ての支援 ・生涯にわたる読書のスタートを切るきっかけとする	(子育て支援課) 事業では、ブックスタートの主旨や資料説明、初めて出会う絵本や図書館の紹介、読み聞かせや親子ふれあい遊びを行っています。楽しい雰囲気を楽しみながら、親子で絵本への関心が高まるように促しています。 メディアと子どものよい関係づくりにおいては、グループワークなどを行いながら、メディアが子どもに促す影響について伝えています。また、初めて出会う絵本についての紹介や「読み聞かせ」も行い、読み聞かせの継続が、感性の育ちやコミュニケーション力等につながることを保護者に伝えています。 (文化課) ・家庭での赤ちゃんへのよみかかせの効果についての説明と、よみかかせを行う ・図書館利用案内、おはなし会や文庫活動の案内 ・図書館利用者カード作成のすすめ	(子育て支援課) 初めて出会う本について、興味・関心を示される方が多くなり、絵本について詳しい情報を得たい保護者が増えています。 また、絵本の読み聞かせをする中で、乳児の表情が和らぎ絵本に目を向ける姿が見られるようになりました。その姿を見て、保護者も自然と笑みが出て、「絵本」を通して、一緒に心地よい時間を共有し過ごすことができています。 (文化課) ・ブックスタートで図書館のことを知り、来館する保護者が多く見られる。 ・赤ちゃんおはなし会への参加にも繋がっており、好評である。	(子育て支援課) ブックスタート事業に参加してもらえよう、乳児家庭全戸訪問や保護者がサンコスモに来訪される時に周知し、参加できていない保護者には、再訪問して保護者のもとに絵本が届くように努めています。 しかし就労などで引換が難しい保護者には、どのように配布するのがよいかは課題です。 (文化課) ・家庭での読み聞かせを促す継続した取り組み	(子育て支援課) 今後も引き続き、乳幼児健診や乳児家庭全戸訪問等で周知の機会をとらえ、ブックスタート事業への参加を促し、親子で一緒に絵本に触れ楽しいひとときを持ていただけるように努めていきます。 絵本リスト等の活用をしていただき、絵本に興味や関心を高め、赤ちゃんおはなし会参加や図書館利用につながるよう取り組みます。 また、就労等により絵本の引換が難しい保護者にとって、受け取りやすい場所等の環境を整えたり、訪問や連絡をとったり、絵本を保護者のもとに届けられるよう努めていきたいと思っています。 (文化課) ・赤ちゃんおはなし会等での家庭での赤ちゃんへの読み聞かせのすすめ ・赤ちゃん絵本の更なる充実
	(2)セカンドブック事業の取組	(文化課) ブックスタート事業に続き、継続して家庭での読み聞かせが行われるよう、3歳児に絵本をひとり一冊配布する。	(文化課) ・3歳児健診を受ける子どもを対象に、3歳児健診会場もしくは古賀市立図書館で絵本を渡す。絵本は5冊の中から一冊好きなものを選んでもらう。 ・絵本とともにセカンドブックのしお리를渡し、図書館利用・おはなし会の案内や家庭での読書の意義について説明をする。	(文化課) ・転入した3歳児にも通知して受け取りに来てもらっている。対象者の90%以上の子どもに配付できた。 (子育て支援課) サンコスモで行われている3歳児健康診断のご案内資料に「セカンドブック」引換券を入れ送付し、健診当日に対象者の名簿と場所を提供している。	(文化課) ・子ども読書活動のさらなる推進 子育て支援課との連携(セカンドブックの配付を健診のメニューに組み込んでもらう 孤立した家庭を訪問するときのきっかけにセカンドブックを使ってもらう等)	(文化課) ・セカンドブックの見直し(冊数や個々の絵本について)

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 家庭・ 地域	(3)つどいの広場事業の取組	(子育て支援課) 子育て中の親子の居場所や 子育てに関する相談・情報提 供を行い、育児不安や子育て の軽減を図る	(子育て支援課) ・絵本コーナーを設置し、親子で楽しく絵本に触れ親し める環境を整備整備しています。 ・図書館のおはなし会や地域文庫の紹介・啓発をして います。	(子育て支援課) 「読書活動」の大切さを理解する ことで関心を持ち、家庭での絵本の 読み聞かせにつながっています。ま た、図書館、地域でのおはなし会等 の紹介、周知を図ることにより絵本 への意識が高まっています。	(子育て支援課) でんでんむしを利用される親子 が、絵本コーナーで絵本に触れ る環境を整えてきました。しかし、 絵本に興味・関心が薄い親子の 姿もあるので、親子で楽しめるよ うに絵本コーナーの充実を図っ ていく必要があります。	(子育て支援課) ・絵本コーナーの環境を整え、親 子で絵本を楽しむ空間になるよう 充実させていきます。 ・絵本を身近に感じ、保護者が子 どもに日常的に読み聞かせや絵 本の選択ができていくように、年 齢や発達に応じたアドバイスや 支援を引き続き行っています。
	(4)地域文庫の取組	(文化課) 身近に読書に親しめる場や 機会を提供し、家庭・地域に根 ざした地域文庫活動の普及を 行う。	(文化課) ・図書館から配本(年3回、上限300冊まで)や大型絵 本、パネルシアターなどを借り、読み聞かせや貸出し 等を行う。 ・地域や育成会などと共催でのイベントの開催など。	(文化課) ・地域文庫の継続した活動により、 家庭や地域の読書の充実が図られ た。	(文化課) ・行事での子どもの参加は多い が、普通の日の参加が少ない。 ・本を借りる子どもが少ない。 ・スタッフの増員	(文化課) 事業の継続
	(5)学童保育所の 取組	(文化課) 学童保育所での読書に親し む環境づくりをすすめる。 (古賀東学童保育所) 学童保育 (古賀西学童保育所) 保護者が就労等により昼間 家庭にいない児童の放課後の 生活の場を提供し、遊び等をと おして子どもの健全育成を図 る。 (花鶴学童保育所) どろんこクラブ 落ちついた時間をつくる (花見学童保育所) 日中保護者が家庭にいない 小学生児童に対して、授業の 終了後に適切な遊びや生活の 場を与えて児童の健全な育成 を図る。	(文化課) ・図書館から団体貸出(図書・大型絵本・パネルシア ターなど)を受け、読み聞かせ等を行う。 (古賀東学童保育所) 平成31年2月26日、かちかち会の方々を招いて、紙 芝居をしていただきました。 (古賀西学童保育所) 施設内の読書スペースを充実し、市立図書館からも 本を借り、落ち着いた読書環境を整備する。一日保育 時の朝の会、昼の会、帰りの会等での読み聞かせ、子 ども達が行うなぞなぞ、工作、手芸等にも本を利用し ている。 (花鶴学童保育所) 宿題が終わった子ども達が待っている間、読書す る。17時降所前に、帰りの会で絵本の読み聞かせをす る。 ・年に1回～2回、玄界高校の図書部の人達によるスラ イドや読み聞かせを実施 (花見学童保育所) ・保育での読み聞かせ。10～15分程度の読書タイム 〈平日〉帰りの会 紙芝居、絵本読み聞かせ(5～10 分程度)。学習時間(宿題)後、宿題が早く終わった 児童は読書で待つ。 〈一日保育〉朝の会、帰りの会 紙芝居、絵本読み聞 かせ。・(土曜・長期休み)朝の学習時間、弁当後の待 ち時間、読書で待つ(10～15分程度)	(文化課) ・団体貸出により学童保育所での 読書活動の充実が図られた。 平成30年度 1392冊 (古賀東学童保育所) 特になし (古賀西学童保育所) 子ども達の目の届くところに本が あり、自分から本を手取る習慣が できている。 自分で本を読むだけでなく、大勢 の前で読むことも始めている。 (花鶴学童保育所) 読書が好きな子どもが多い。 (花見学童保育所) ・静かに本を読む習慣が身に付い た。 ・落ち着いた状態で帰りの会に参加 できるようになり、指導員の話もしっ かり聞くようになった。	(文化課) スペースの問題で、落ち着いた 場所で読書しにくい。 (古賀東学童保育所) 本を身近に感じ、本を読むこと が好きになって欲しいなと思い、 学童の本棚には子ども達が興味 を示すような本を置いています が、読む子は決まっています、みん なが本に親しんでいるとは言え ません。 (古賀西学童保育所) ・古賀市立図書館の本の返却期 限が1ヶ月と短いため、返却期間 がすぐ過ぎてしまう。 (花鶴学童保育所) 子ども達の人数が多く、月に一 度本を借りに行きたいが、運ぶ のも大変。本を沢山借りられて、 本を読ませることができる。 (花見学童保育所) 学童の人数が増えたので、毎 月図書館に借りに行くのが大変 になってきた。 ※夏休み期間中2か月程借りら れるようにしてほしい。	(文化課) 事業の継続 (古賀東学童保育所) ・毎日、16時30分～読書タイムを 設けて、本を読みたい人は読書 をしている。 ・毎日、16時45分～DVDを見てい る。 (古賀西学童保育所) ・本の入れ替えにより蔵書の充 実。 ・小学校内の図書室からの本(紙 芝居)の貸出しをお願いする予 定。 (花鶴学童保育所) 上記の活動をできるかぎり継続 していく。 (花見学童保育所) 学童では、狭い部屋にたくさん の児童がいるため、騒がしくなる ことが多かった。その対策として 本を読んで待つことが身に付き、 落ち着いた生活が送れている。し かし、本を置くスペースが足りな いなど、環境面に問題がある。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 家庭・地域	(6)「放課後子供教室(アンビシャス広場づくり)事業の取組	(青少年育成課) 地域全体で、子どもを育む「アンビシャス広場づくり事業」において、物づくりや、本の読み聞かせなど様々な活動が行えるよう、子どもが本に親しむ環境づくりを支援する。	(青少年育成課) 千鳥チャレンジ・アンビシャス広場、舞っ子アンビシャス広場での「ボランティア団体との協働」により物づくり、本の読み聞かせの活動を行った。	(青少年育成課) ボランティア団体との協働により、「本の読み聞かせ」とおし子ども達が本に親しむ環境の整備ができた。		(青少年育成課) <u>千鳥チャレンジ・アンビシャス広場、舞っ子アンビシャス広場での「読書活動」実施状況を、他のアンビシャス広場へ情報共有し、普及させたい。</u>
	(7)地域コミュニティ活動の取組	(文化課) 地域のコミュニティで行政区ごとの世代間交流や子育て支援を行う団体が読書活動を行う	(文化課) ・図書館は紙芝居や読み聞かせ等の読書活動ができるよう団体貸出などの支援を行っている。 ・読書ボランティア団体の協力で読み聞かせやわらべ歌を楽しんでいる団体もある		(文化課) 団体登録されていないグループの活動を把握することが難しい。	(文化課) (文化課) 読書活動をすすめるボランティア団体と協力しながら公民館などのグループの読書活動が広がるよう支援していく。 <u>子育て情報誌などで活動の把握に努める。</u>
	(8)児童館の取組	(青少年育成課) 児童館の図書室等を充実し、利用促進を図る。	(青少年育成課) ・市内3児童館内に図書室・図書コーナーを設置し、図書の充実を図った。 ・各児童館において、乳幼児事業の際、乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行なった。 ・3館合同乳幼児事業において、講師を迎えての「読書活動」を行った。	(青少年育成課) ・ <u>図書が充実したことで、図書室・図書コーナーの利用が増えた。</u> ・乳幼児とその保護者に対し「本の読み聞かせ」を行うことで「本と親しむきっかけ」ができた。	(青少年育成課) 来館児童への聞き取りを行い「 <u>子ども達が読みたい本</u> 」を選定し計画的に購入し一時的な図書の利用は増加しているものの、 <u>図書(活字ばなれ)については課題と感じている。</u>	(青少年育成課) ・ <u>児童館独自で本の購入を行うことで、図書室・図書コーナーの利用が増えている。購入だけでなく図書館からの借り入れを増やし、更なる充実を図りたい。</u> ・児童館を利用する子ども達、乳幼児とその保護者が本に触れる機会が増えるよう「読み聞かせ」「おはなし会」の充実を図りたい。
	(9)子ども体験活動事業の取組	(青少年育成課) 様々な体験活動の機会を提供する中で、地域やボランティアと連携して子どもを読書活動に導く。	(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタにおいて、古賀市内の読書ボランティア団体と古賀市中学生読書サポーターによる読み聞かせを実施する。	(青少年育成課) 「読み聞かせ」の活動を通して、読書ボランティアと古賀市中学生読書サポーターとの連携を図り、参加する子ども達、乳幼児とその保護者に対し本に触れる機会の提供などの読書活動に導くことができた		(青少年育成課) 古賀市子どもわくわくフェスタで、子どもの本の交流を行うことで読書活動の啓発を行いたい。
	(10)家庭・地域教育支援事業の取組		該当事業無し			

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 保育所（園）・幼稚園	(1)本の読み聞かせの継続 (2)図書スペースの確保と充実 (3)保護者へのはたらきかけ	(文化課) 保育所(園)・幼稚園で行われる読書活動をすすめるため、図書スペースの確保と充実を図る。 (鹿部保育所) ・1対1での親子触れ合いの場を持ち、愛着関係を育てる。 ・いろいろな絵本に触れる。 (久保保育園) 読み聞かせや絵本の貸出しをとおして、様々な絵本に触れ、身近に感じる。 (恵あおぞら保育園) ・親子で絵本に親しみ、絵本の楽しさを味わう。 ・親子の触れ合う時間を大切にする。	(文化課) ・図書館から団体貸出し(図書・大型絵本・パネルシアターなど)を受ける。 (鹿部保育所) ・保育所の絵本の貸出し(毎週1人1冊) ・年齢に合った絵本の読み聞かせ ・ゲストティーチャーの先生によるお話し会→手遊び、わらべうた遊び、絵本など (久保保育園) ・平成30年6月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) ・平成31年2月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) ・令和元年6月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) ・平成30年4月～令和元年8月 年長児おはなし会(毎月1回) ・令和元年5月 キャラバンカー「本とあそぼうおはなし隊」来園 ・令和元園8月 未満児おはなし会 ・毎週1回 絵本貸出し(全園児対象・通年) (恵あおぞら保育園) ・毎週水曜日3歳以上児、木曜日3歳未満児と曜日を分けて貸出しを行う。	(文化課) ・団体貸出しにより、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・団体貸出しの冊数 平成30年度 1646冊 (鹿部保育所) ・親子で絵本を読む機会も増え、毎週喜んで本を選んでいる。 ・スキンシップや親子触れ合いの場が増え、気持ちも落ち着き、リラックスした現場の中で、絵本をとおして語彙力・想像力が増える (久保保育園) ・子ども達は毎月のおはなし会をとおして普段自分では選ばない絵本等、様々な種類の絵本に触れることができている。 ・絵本の貸出しでは、自分の好きな絵本を選ぶことができ、未満児の子ども達は保護者と一緒に借りるの で、親子の触れ合いが持てる。 (恵あおぞら保育園) 先生の話や、先生が読む絵本を静かに聞くことができる子どもが多くなった。	(鹿部保育所) ・絵本の取り扱いが課題。(中にはおもちゃになり、雑に扱ってしまっているところもある) (久保保育園) ・未満児の絵本の貸出しを送迎時に一緒に行っているが、借りる家庭が少ないこと。 (恵あおぞら保育園) 本を大切に扱うようにすること。	(文化課) 事業の継続 (鹿部保育所) ・絵本の大切さを各家庭にお知らせ ・子どもが心身ともに成長していく上で、大切なことを知らせていく。 親子の大切な時間になるように活用していく。 (久保保育園) 現在、行っているおはなし会を継続して行い、絵本の楽しさを伝えていきたい。また、園内で取り組んでいる内容を掲示板やおたより等で保護者の方へ発信していきたい。 (恵あおぞら保育園) ・特になし ・今後も継続していく

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 保 育 所 （ 園 ） ・ 幼 稚 園	(1)本の読み聞かせの継続	(庄ひかりこども園) 絵本に慣れ親しむ	(庄ひかりこども園) ・月1回のお話し会(年長児) ・朝・夕の会での読み聞かせ(毎日) ・保護者・園児への絵本貸出し(毎週末) ・行事での大型絵本活用	庄ひかりこども園) ・絵本・文字への興味が出てきた。 ・お話し会により、耳で聞く力、ストーリーを理解したり想像する力がついてきた。 ・子ども達の活字離れと言われていたが、自由遊びの時にも絵本を見たり、保育士に読んでほしいと持ってくるが増えている。	(庄ひかりこども園) ・絵本を大切に扱う。 ・日常の中での読み聞かせをさらに大切にしていくという意識を職員間で共有していく。 ・読み聞かせも必要だが、自分でじっくり読み込めるような環境づくりをさらにしていく。	(庄ひかりこども園) ・職員同士での読み聞かせの研修もやっていきたい。 ・保護者へ乳幼児期の絵本の大切さを伝えていく。(絵本を定期的に紹介していく。)
	(2)図書スペースの確保と充実	(花見光こども園) 絵本に慣れ親しむ	(花見光こども園) ・月1回のお話し会(年長児) ・朝のお集まり、保育活動中、お帰りの会での読み聞かせ(毎日) ・行事絵本を図書館で借り、活用する。	(花見光こども園) ・ストーリーや文字への関心が出てきた。 ・月1回のお話会の楽しみ ・理解力や想像力を身に付けることができる。	(花見光こども園) ・年長の人数が多いので、2グループに分けて、落ち着いた環境をつくっていく。 ・絵本をていねいに扱う(大切さを知る)	(花見光こども園) ・絵本やお話しの研修 ・保護者への絵本の紹介 ・絵本冊数の更なる充実
	(3)保護者へのはたらきかけ	(ほづみこども園) 「ほづみおはなしタイム」(0歳からの読み聞かせ) 1 美しい絵やイラスト、日本語の美しい音声の響きをとおして、感性を豊かにする。 2 いろいろな物語絵本の世界に触れることで、知的好奇心を高める。 3 場面や心情を想像する力を育てる。 4 言葉の表現を知ること、語彙力を育てる。 5 コミュニケーション力を育てる。	(ほづみこども園) ※毎日10分、2冊を目標に、読み聞かせ等読書活動の時間を設定する。 0歳 ブックススタート 視力が未熟な0歳児にも楽しめる絵本を選び毎日読み聞かせを行う。膝に抱き安定して楽しめる環境をつくり、温かな声でゆっくりと読み聞かせを行う。声を聞くこと、声を出すことを楽しめるようにする。 1歳 言葉聞かせ 絵本に興味を示し自分で扱いたがる時期に合わせて、毎日2冊の読み聞かせを行う。比較的短めで、イラストや挿絵は実物に近い本を選ぶ。自身でページをめくる動作も好むため、子どもの状況に合わせて、繰り返し何度も言葉を聞かせ、音声言語を聴く楽しさや、保育者とのやり取りを楽しむことができるようにする。 2歳 繰り返しを楽しむ 簡単なストーリーを楽しむ、繰り返しを好むこの時期に、1日2冊を目安に読み聞かせを行う。月ごとのテーマに沿った本を何度も繰り返し読むことに合わせ、リズムをつけた手遊びや動作化を交えながら言葉を意味を結びつける。 3歳～5歳 興味の幅を広げる 3～5歳になると、だんだんストーリーの理解度が広がり、未知のものに興味を持つこの機に、さまざまなジャンルの本を読み聞かせ、興味の幅を広げていく。帰りの集まりの際に、「ほづみおはなしタイム」を設け、保育者がテーマに沿った本を1日2冊程度読み聞かせを行う。リズム遊び、動作化、簡単な劇遊びなど活動をとおして理解を図るようにする。年度後半には、素話や暗唱などを含め年長児が中心となって進める機会を設ける。	(ほづみこども園) 子ども達は、「ほづみおはなしタイム」を心待ちにしており、1日に生活の中に位置づけることができた。	(ほづみこども園) ・各クラスで、毎日読み聞かせを行うことができたが、子どもの生活と関連していない内容となった時もあった。 ・身に付けたい力や目指す子どもの姿を職員間で共通理解が不十分な面もあった。 ・職員の素話や読み聞かせの仕方や計画実施などをスキルを向上させる必要がある。 ・園だけでなく家庭にも広げていく必要がある。	(ほづみこども園) ・年間テーマを園全体で見直し、0歳からの整合性を図る。 ・素話や劇遊びなど活動の場を広げる。 ・保護者との連携を図る。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 保育所（園）・幼稚園	(1)本の読み聞かせの継続	(暁の星幼稚園)てんしぐみ幼稚園に入園する前のお子様対象で、幼稚園に来ていただいて親子で活動してもらおう。	(暁の星幼稚園) 親子でいろいろな活動をする中に絵本の読み聞かせをいれています。低年齢のお子様対象なので、市立図書館で大きな絵本を借りて活用させてもらっています。	(暁の星幼稚園) 絵本が大きくて見やすく、家庭ではあまり触れる機会がないので、とても喜んでくれています。	(暁の星幼稚園) ・図書館の大きな絵本は、種類がとても多いのでたくさん読んであげたいです。	(暁の星幼稚園) 在園児も大きな絵本はとても好きなので、もう少し回数を多く借りに行ってみようと思います。
	(2)図書スペースの確保と充実	(天照幼稚園) ・本に興味を持ち、本を読むことが好きになる。 ・文字に興味を持ち、読めるようになる。 (花鶴丘幼稚園) にじのおと幼稚園の保護者を主としたお母さんたちに年に数回子ども達への絵本の読み聞かせをしていただいている。 1回15分程度で手遊びを含む年齢に応じた絵本3冊。	(天照幼稚園) 子ども達は、毎日園にある本を自分で選び、必ず1冊は読んでいます。(年長は文字が多めの本、2歳児は絵本など) 自分で読んだ本はノートに記録をしています。また保育の中で全体での読み聞かせも行います。 週に一度、絵本を貸し出し、家庭でも読めるようにしています。 (花鶴丘幼稚園)全ておはなし会で15分、絵本3冊です。 平成30年度 1回目 年長5月30日 年中6月29日 年少・年少々7月12日 2回目 年長12月7日 年中11月12日 年少・年少々12月12日 ひよこクラブおはなし会2月12日 3回目 年長2月26日 年中3月12日 年少・年少々2月25日 令和元年 年長6月11日 年中6月25日 年少・年少々6月25日 ひよこクラブ7月9日	(天照幼稚園) 自分から本を読み、本に触れる機会が増えました。(お気に入りの絵本が見つかり、何度も読む子どもいます。) (花鶴丘幼稚園) 年に数回という貴重な時間であるため、子ども達も毎回楽しく参加することができている。にじのおとの方々に年齢に応じて選書も行ってもらっているため、子ども達も絵本に親しみを持つことができている。また、集中力の持続も期待できる。	(天照幼稚園) ・子ども達が絵本にさらに興味が持てるように、どのように工夫していけばよいか。 (中にはあまり絵本に興味を示さない子もはじめはいますので、どのように楽しめるよう工夫するか) (花鶴丘幼稚園) クラスによって絵本の読み聞かせの頻度であったり、読み聞かせが行われている時の姿勢、集中の持続がまちまちである。そのため、各担任が意識的に時間を作って絵本の時間を設けることによって、にじのおとが子ども達にとってよりよい時間になると考える。	(天照幼稚園) 今の活動以外は特に予定していません。 (花鶴丘幼稚園) 例年と同じ時期に各学年ごとに読み聞かせを行う。
	(3)保護者へのはたらきかけ	(花鶴幼児園) ・絵本の楽しさを知り豊かな表現力を育てる。 ・聞く力をつけ、集中力を養う。 ・子育て支援活動(エンジェルルーム)の中で親子で絵本に触れる時間を提供し、その大切さを伝えていく。	(花鶴幼児園) ・朝のお集まり後、午睡前、夕方等、1日に数回必ず絵本の読み聞かせを行う。 ・子育て支援(エンジェルルーム)での読み聞かせ活動。 ・七夕、ひなまつり等季節の行事の際にその内容に沿った絵本の読み聞かせを行う。 ・自由に絵本を手に取り、絵本に触れられる環境をつくる。	(花鶴幼児園) 毎日継続して絵本読み聞かせを行うことで、絵本に対して興味を持ち、自ら進んで絵本を手取る姿が多くみられるようになった。 また、座って話を聞くという集中力の面や言葉の発達、表現力の面でも成長が見られる。	(花鶴幼児園) ・絵本の数に限りがあり、絵本の幅が限られてしまう。 ・保護者への絵本についての働きかけが少ない。(特に在園児)	(花鶴幼児園) ・近隣の図書館を有効に活用し、絵本の内容を充実させていく。 ・年齢・季節に応じた絵本の紹介や、市内での読み聞かせ活動を伝える等、積極的に情報を提供し、親子で絵本を読む時間を共有することの大切さを伝えていく。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3	学校	(1)学校図書館の運営	(青柳小) ・学校図書館を活用し、自分の興味に応じたり能力に適したりしたいろいろな図書及び図書資料をすすんで選択したり、活用したりすることができる子どもを育てるため。	(青柳小) ・教科等、その他教育活動での図書資料利用、環境整備、家庭・地域との連携をして、児童の読書意欲を高める。	(青柳小) ・読書好きの児童が多く、図書館に来ると喜んで本を選ぶ姿が見られた。	(青柳小) ・同じ学年でも読める子と読めない子の差がある。 ・休み時間に自主的に図書室に来る子と来ない子がいる。
		(古賀東小) 全教育活動において、学校教育目標及び図書館教育目標を達成するために、読書活動の充実を果たす。	(小野小) 学校図書館運営の組織としては学校図書館教育部(司書教諭と他教諭2名、図書司書)と学年部(各学年担任)、教科等指導との連携を図りながら、運営、管理を推進する。	(小野小) 情報・学習センターとしての活用が増え、調べ学習や授業の合間に子どもが本を借り換えしたり調べ学習のために図書館を有効に使ったりしている子どもが増えた。	(古賀東小) 教科が増えるなか、全体で取り組む時間の確保が難しくなっている。	(小野小) 継続
		(古賀西小) 教育活動での活用を通して、読書習慣の定着化を図る。 図書資料の活用により、情報の収集・選択・分析の情報活用能力を高める。	(古賀東小) ・読書活動の充実や学校図書館活用年間計画の編成・実施を行う。	(古賀東小) 全校生徒で読書活動に取り組むことで、縦のつながり横のつながりができ子どもたちの読書への意識が高まった。	(古賀西小) 高学年の読書時間の確保が難しいため、授業等を通じて利用してもらうようにする。	(古賀東小) ・学校図書館年間計画の編成・実施 ・言語の充実を図るための図書館環境整備 ・地域・保護者との連携 ・親子読書の推進
		(千鳥小) ・問題解決学習を支える学習情報センター ・読書の喜びを知り豊かな心を育てる ・教育活動を通し、読書習慣が定着する	(古賀西小) 司書教諭と司書が連携を図りながら、運営・管理を行い、読書活動を推進している。	(古賀西小) 他の教員が図書資料を活用することが多くなった。	(花鶴小) 司書教諭が担任を持っていて忙しいため、話し合いの時間を確保するのが難しい。	(古賀西小) 以前の活用例などの提示を行う。
		(花見小) 学習情報センター、読書センターとしての機能の充実。地域、家庭との連携。図書委員会活動の充実を図る。	(千鳥小) ・適切な資料の提供、収集・整備 ・学習を支える環境整備 ・読書指導の活性化 ・図書委員会を通し情報を伝え読書を奨励する ・図書館便りや掲示・展示	(花鶴小) 年度初めに司書教諭と話し合い、計画的に運営することができた。	(千鳥小) ・学年に応じた読書力に差があり、読書の質を高めていく必要がある。 ・司書教諭と学校司書の連携にはお互いの連絡が必要である。	(千鳥小) ・読書の面白さを知ることができるよう、教師・司書や図書委員会の活動を通して働きかける。 ・司書教諭、学校司書だけでなく全職員で図書館運営に理解を働きかける。
		(古賀中) 「学習センター」としての機能を更に高め、学習に役立つ図書館を目指す。 また、読書及び学習に対する興味・関心を持てるよう、読書活動や読書指導の場として	(花見小) 蔵書構成を元に図書購入。読書指導や読書に引きつける掲示・宣伝を行っている。	(千鳥小) ・各教科や学習活動に応じた読書によって、図書の貸出数などは増加傾向にある。 ・図書館の本を利用した学習・司書教諭と学校司書で連携して運営できた。	(花見小) 学習活動のための必要な資料の充実、授業での活用を増やしたい。	(花見小) 教諭との授業前の事前打ち合わせを図り、教科書関連の本を購入する。
		(古賀東中) 子供たちが利用しやすい図書館の環境を整え、自主的な読書活動を推進すること	(古賀中) 司書教諭、学校図書館司書が中心となり、各学年の図書委員会担当教員との連携を図り運営をする。	(古賀北中) 図書委員会を中心に、日常活動・広報活動・行事を円滑に進めることができた。	(古賀北中) 図書利用マナーがまだ完ぺきではない。	(古賀北中) 委員会を通してマナーの周知徹底。
			(古賀北中) 情報センター・学習センターとして機能。	(古賀東中) 複数の委員の子が自主的に当番の時以外も読書活動をするようになった。		(古賀東中) 当番表を作成し、カウンターの近くに掲示している。 延滞者に対して督促状を出す。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(2)読書指導・読書活動の充実	(古賀東小) 読書に親しむことで、落ち着きと思いやりのある心情の育成を図る。 (古賀西小) 児童の読書への興味・関心を高め、読書習慣の定着化を図る。語彙力や読解力を高める。 (千鳥小) ・全職員共通理解での計画的な図書館運営 (花見小) 読書離れ、軽読書化にある児童の意欲を引き出し、豊かな人間性を養う。	(青柳小) ・年度始めのオリエンテーション ・ビブリオバトル ・百科事典の使い方 ・週一回朝の本読みの時間(1～4年生:読み聞かせ、5、6年生:本読み) ・毎週火曜のチャレンジタイムに読書(夏休み前まで) (小野小) 朝の活動で毎週火曜日、水曜日(低学年のみ)読書を10分間行っている。お話の本を集中して読むことや読書ボランティアの読み聞かせを毎月クラスごとに行い、図書委員会による読み聞かせやビブリオバトル等の本の紹介、毎月のクラス貸出ランキング放送や100冊達成者へのシール配付等読書活動への関心につなげている。 (古賀東小) ・年2回の授業時間内でのお話会 ・年2回読書週間 ・年1回読書月間 (古賀西小) ・朝読書の取組 ・年間の読書冊数の目標を立てる。(1人100冊) ・はがき新聞の活用 (花鶴小) 朝読や保護者ボランティアによる読み聞かせ、昼休みのお話会、講師を招いてのお話会を行った。 (千鳥小) ・オリエンテーション ・お話会(司書及びゲストティーチャー) ・読書活動年間指導計画の作成と運用 ・読書習慣の全校一斉読書の実施 (花見小) ・読み聞かせやブックトーク ・朝の読書活動 ・おすすめの本のリストの活用 ・読書ボランティアによる読み聞かせ	(青柳小) ・学年ごとに異なる内容のオリエンテーションを行うことで、段階的な指導ができた。 ・読書の時間が確保されていることで、活発に図書館が利用された。 (小野小) 毎月のクラス貸出ランキング放送や100冊達成者へのシール配付等は、子どもたちの読書意欲につながっている。 (古賀東小) 一人一人の子どもたちが読書の幅を広げ、質を高める取り組みを通し、読書の楽しさを味わうことができた。 (古賀西小) ・読書活動の内容の充実を図ることができた。 (花鶴小) 読み聞かせしてもらったり、紹介してもらった本を借りに来る児童の姿がよくみられた。 (千鳥小) ・どのような図書を活用して学習を進めるかか、蔵書が不十分な場合にどのような対応をすればよいのか見通しがたった。 ・読み聞かせやブックトークなどで読書の楽しさを知ることができた。 (花見小) 各学年、本が好きな子どもが多く、多彩な本を手に取り、学級文庫も活用している。 (舞の里小) 学校図書館運営の方針や目標、具体的な取組を提案することで全職員で共通理解を図り運営できる。	(青柳小) ・年度当初のオリエンテーションだけでは、身につかない。 (古賀東小) 読むことを苦手とする子どもたちへの配慮が必要 (古賀西小) 朝読書の時間が少なくなった。(読書週間期間中のみ) (千鳥小) ・読書の領域を広げ、読書の質を向上させる必要がある。 (花見小) 読む本の内容に個人でバラつきがあるので、話題の本や多層な本を紹介する。 (舞の里小) 学級ごとに利用にバラつきがある。	(青柳小) ・後期の始めに、再度説明や補足を行う。 (小野小) 継続 (古賀東小) 委員会を中心に読書週間に本の紹介を行う。 (古賀西小) 今後、検討していきたい。 (千鳥小) ・子供の関心をひき読書に興味をもたせ本に親しむ機会を増やしていきたい。 (花見小) 図書委員おすすめの本の掲示。図書館だよりで児童の感想文を紹介していく。 (舞の里小) 図書室として学習・情報センターとして活用できるように努める。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(2)読書指導・読書 活動の充実	<u>(古賀中)</u> <u>読書指導を充実させること</u> <u>で、自ら読書に対する意欲を</u> <u>持てる生徒を育てる。</u> <u>(古賀北中)</u> <u>読書の楽しさに触れる。</u> <u>(古賀東中)</u> <u>児童が自ら進んで読書をする</u> <u>環境づくりをし、新たな読書</u> <u>の楽しさや良さを知る動機付</u> <u>けを図るため</u>	<u>(古賀中)</u> <u>・1年生を対象とした図書館オリエンテーションの実施</u> <u>(古賀北中)</u> <u>朝の10分読書の徹底</u> <u>(古賀東中)</u> <u>・朝読書 ・読書ボランティアによる「読み聞かせ」・授</u> <u>業において「ブックトーク」の指導</u>	<u>(古賀中)</u> <u>オリエンテーションで本の探し方、</u> <u>出典の書き方が一通り周知でき</u> <u>た。</u> <u>(古賀北中)</u> <u>8時25分には静かに全員読書が</u> <u>できている。</u> <u>(古賀東中)</u> <u>・文化発表会において「ブックトー</u> <u>ク」大会を開催。</u> <u>・読書ボランティアのお話会が成功</u>	<u>(古賀中)</u> <u>索引の引き方や目的の本を探</u> <u>しきれない生徒がいるので指導</u> <u>の方法の改善が必要。</u> <u>(古賀北中)</u> <u>一定数の不読書がいるので読</u> <u>書週間の定着を図る。</u> <u>(古賀東中)</u> <u>前年度の司書担当者が主に</u> <u>行ったことを踏襲している。</u>	<u>(古賀中)</u> <u>継続して調べ学習の際に指導</u> <u>する。</u> <u>(古賀北中)</u> <u>生徒一人ひとりに合った読書の</u> <u>楽しさを伝えられるような環境づ</u> <u>くりを行う。</u> <u>(古賀東中)</u> <u>「ブックトーク」の企画を成功せ</u> <u>ることを目標そのための勉強や</u> <u>情報収集、実際に自分でやって</u> <u>みる</u>

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(3)読書関連行事の実施	(青柳小) ・全校児童に図書館に親しみを 持たせ、読書、調べ学習など 活発に図書館が利用されるよ うはたらきかけるため。 ・図書館運営と図書委員会活 動の反省の機会とする。 (古賀東小) 読書の輪が広がるような取 組を行うことで、図書館の活発 な利用につなげていく。 (古賀西小) 児童の読書への興味・関心 を高め、読書習慣の定着化を 図る。語彙力や読解力を高め る。 (千鳥小) ・読書への興味・関心を高め、 読書力を育成する (花見小) 読書指導の活発化に努め る。	(青柳小) ・子ども読書の日(春の読書週間)4月3週目…図書委 員によるおはなし会、しおりプレゼント、新しく来た先生 方おすすめの本紹介(掲示) ・夏の読書月間6月…おはなし会、脱出ゲーム、あじさ い集め、しおりプレゼント ・秋の読書月間11月…もみじ集め ・冬の読書週間2月…ゆきだるま集め、人形劇、しおり プレゼント (小野小) ・子ども読書の日「お家で本を読んだよ」プリント提 出・展示、・読書週間(年に3回)、・読書集会(多読書 者表彰、ビブリオバトル、全校一斉群読等)実施 ・読 書ボランティア団体による読み聞かせを全クラス授業 時間(1～3年生2回)行っている。 (古賀東小) ・読書集会(ビブリオバトル)への取組 (古賀西小) ・読書週間の実施 ・子ども読書の日取組 ・読書ボ ランティアによるお話会 ・ことちゃん来校・読書ノート 配布(1年生) (花鶴小) 子ども読書の日取組、読書月間を2回行った。 (千鳥小) ・6月のあじさい週間 ・10月から11月にかけてのも みじ月間 ・1月から2月にかけてのゆきだるま週間 ・ 秋と冬に実施する辞書引き大会 (花見小) ・市立図書館1年生へのお話会 ・読書週間お話を 年3回行う。	(青柳小) ・図書館の利用が増えた。 ・図書委員の児童が企画・運営する ことで、委員同士の連帯感が生ま れ、成長につながった。 (小野小) ・「お家で本を読んだよ」プリント提 出は保護者の記入も増え、提出も 多くなってきた。 ・ビブリオバトルで紹介された本は 特に貸し出しが増えた。また、ビブ リオバトルでの発表の仕方やまとめ 方など学ぶ意識が向上した。 ・読書集会の全校一斉群読は、全 校で声や気持ちを合わせ地域のお 祭りにも披露し、読書集会群読は H22～10年続いて行っている。 (古賀東小) 全校生徒がチャンプ本を決めるこ とで、本への関心が高まった。 (古賀西小) 児童の読書への関心が高められ た。 (花鶴小) みんなが参加したくなるような内 容を図書委員が工夫したことでたく さんの人が図書館に来てくれた。 (千鳥小) ・図書委員会を中心とした読書週 刊・月間などの行事の実施を楽し みに取り組んでいる ・行事によって読書冊数なども伸び ている。 ・全校児童が取り組んでおり、図書館 利用の機会がひろがった。 (花見小) 低学年から読書の楽しさを覚え、 読書週間や読書集会では、図書委 員会が自分たちで発信する楽しさ を感じている。 (舞の里小) 読書ボランティアによる読み聞か せの時間は集中して話を聞けてい る。	(青柳小) ・学校行事とのかねあいで、準備 が大変、利用者が伸びない時期 がある。 (古賀東小) 限られた時数の中での開催と なり、担任への負担が大きい。 (古賀西小) 子ども読書の日が家庭訪問期 間中につき、午前中で下校する ため、毎年日程をずらしている。 (花鶴小) 内容がマンネリ化しないように 気をつけたい。 (千鳥小) ・読書冊数は伸びているため、質 を向上させる必要がある。 (花見小) 準備に時間がかかるので、内 容の見直しが必要。 (舞の里小) 本を選べない、偏りのある児童 への対応が必要。	(青柳小) ・例年基本的な取り組みは継続 し、その都度図書委員のアイデ アを大事に実施していく。 ・図書委員の自主性を引き出す ような声かけ、指導をしていく。 (小野小) 継続 (古賀東小) 今年度は時数の関係上難し い。 (古賀西小) 子ども読書の日が4月23日であ ることを定着させるため、広報活 動などで伝えていく。 (千鳥小) ・図書館だよりや校内放送での 本の紹介や普段の貸出時の声 かけなど (花見小) 年間の流れを整理して、支援を 行なう。 (舞の里小) 担任や読書ボランティアと連携 して読書活動を充実させる。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(3)読書関連行事 の実施	(古賀中) 積極的に読書関連行事に取 り組むことにより、読書に興味・ 関心を持てるように図る。 (古賀北中) 図書館を身近に。 (古賀東中) 子供が読書意欲を喚起し、幅 広く読書する能力を育成する ため	(古賀中) ・読書週間の実施(年に2回) (古賀北中) ビブリオバトル (古賀東中) ・「子ども読書の日」の意義を知ってもらうために図書 だよりで紹介する。 ・「読書月間」の開催	(古賀中) 普段図書館に來ない生徒が本を 借りたり、いつもより多くの本を借り る生徒が増えた。 (古賀北中) 図書委員長を中心に意見を出し、 実践することができた。 (古賀東中) ・図書館の利用者が増加 ・貸出冊 数の増加	(古賀中) 読書週間の後も継続して読書 を続けるような取り組みが必要。 (古賀北中) 学校全体での共通理解がまだ 出来ていない。 (古賀東中) 図書館でマナーを守れない子 が多くなった	(古賀中) 冬の読書週間を実施予定。 (古賀北中) 広報活動をしっかりと。 (古賀東中) マナーアップポスターの作成 し、注意を呼び掛ける

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(4)学校図書館間 ネットワークの活用	(文化課) 学校図書館間ネットワークを 活用することによって、市内全 域の学校図書館の資料を効果 的に利用し、学習、読書活動 の支援が十分かつスムーズに 行えること。	(文化課) ・e-slipを利用して他校の蔵書検索を行い、相互貸借 の依頼が可能であるネットワーク事業の予算担当(平成30年度)	(文化課) ・図書館ではe-slipを利用しての蔵 書検索や相互貸借は行っていな い。	(文化課) ・e-slipではない蔵書検索の方法 の構築	(文化課) ・図書館では、学校図書館とシス テムが違うこともあり、e-slipを利用 することがなかったため、平成 31年度から予算を学校教育課 に移管した。
		(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心 を高め読書習慣の定着を図 り、読解力や表現力を育成す る	(学校教育課) 令和元年度から学校図書館ネットワークシステム(e -slip)の事務が学校教育課に移管された際に、あまり 利用されていなかった契約内容を見直したため、市立 図書館及び学校図書館間の横断検索ができなくなり ました。ついては、図書館と学校および学校間のネット ワークシステムを利用したこの事業を終了いたしまし た。	(青柳小) ・e-slipで他校の蔵書が見られて役 に立った。 ・少量なら市内の使送便が利用で きてよかった。	(青柳小) ・アップデートをしていないと、最 新のデータが見られない。 ・大量の相互貸借をするのは大 変。	・司書研修会の参加や学校との 情報交換を密にすることにより、 学校への貸出しの充実を図る。
		(青柳小) ・自校の蔵書を充実させるた め。	(青柳小) ・選書の参考にした。	(小野小) e-slipの利用で情報をすぐに得る ことができ、書店にも連絡がつき、 時間短縮につながる。	(古賀東小) 今年度よりe-slipで他校検索が できなくなり、活用しづらくなっ ている。	(青柳小) ・継続してe-slipが使用できると 助かる。
		(古賀東小) 多くの情報の中から必要な資 料を選んで、学習することがで きる。	(小野小) 授業で必要な図書をe-slipを利用して他校の蔵書検 索を行い、相互貸借を依頼したり、図書の現在の有無 や図書資料の確認など書店との情報交換に活用した りしている。	(古賀東小) 当校不足分に関しては市立図書 館より貸借	(古賀西小) 学校間での物流システムがな い。	(小野小) 継続
		(古賀西小) e-slipの活用により、他校の 所蔵検索や相互貸借を行う。	(古賀東小) 必要に応じて活用したい。	(古賀西小) 提供資料の充実を図ることがで きた。	(花鶴小) たくさんの本をかりるときは本 の移動が大変。	(古賀東小) 必要に応じて活用したい。
		(千鳥小) ・情報を共有し有効活用を図る	(古賀西小) 調べ学習など、多くの資料が必要な時に利用し、相 互貸借を行った。	(古賀西小) 提供資料の充実を図ることがで きた。	(千鳥小) ・最新のデータをe-slip上にあげ る必要がある	(古賀西小) 地域開放用の市民用の図書の ように使送便などで対応してほ しい。
		(花見小) 各教科の学習活動、調査研 究活動の為に必要な資料の充 実。	(花鶴小) 本の貸借を行うときにe-slipを使って他校の蔵書を調 べた。	(千鳥小) ・e-slipで他学校の蔵書を確認で きるので便利である。	(千鳥小) ・最新のデータをe-slip上にあげ る必要がある	(千鳥小) ・各学校が定期的に時期を決め てアップデートする。 ・司書研修会などで連携を図って いく
			(花鶴小) 本の貸借を行うときにe-slipを使って他校の蔵書を調 べた。	(花見小) 積極的に活用できていない。	(花見小) 最新のデータをe-slip上にあげ る必要がある	(花見小) 授業で使いたい場合、他の 学校でも使用時期が重なるがど うするかが課題。
			(千鳥小) ・e-slipなどを利用し学習などで必要な図書を学校間で 相互貸借している。	(舞の里小) 資料が足りないとき等に相互貸借 で本を借りる。		(花見小) 教諭との打ち合わせや連携を 深める。活用の仕組みや流れを 整える。
	(花見小) 蔵書の「集団読書テキスト」の他校への貸出し。			(舞の里小) 継続して連携協力していく。		

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学校	(4)学校図書館間 ネットワークの活用	(古賀中) ネットワークの活用により、円 滑に相互貸借、情報交換を行 う。 (古賀北中) 利用者のリクエストに応え る。 (古賀東中) 各学校と市立図書館と連携 し児童の学習活動を支援する ため	(古賀中) 調べ学習時の資料の相互貸借 (古賀北中) 蔵書確認や相互貸借 (古賀東中) 公共図書館や各学校図書館間で本の相互貸借を行 う	(古賀中) ネットワークを利用することによ り、調べ学習などで他図書館の資 料を探すときに活用。 (古賀北中) 調べ学習や生徒からのリクエスト にすぐ応えることができた。 (古賀東中) 他校や市立図書館と相互貸借を 行う	(古賀北中) 直接情報交換をする時間が取 れない。 (古賀東中) 頻度が少ない	(古賀中) 継続して調べ学習の際に利用す る。 (古賀北中) もっと情報交換して図書館活性 化に役立てたい。 (古賀東中) 今後はもっと積極的利用してい きたい。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(5)広報活動の充実	(青柳小) ・読書活動を知ってもらうため。 ・読書月間のお知らせなど、イベントをお知らせして来館してもらうため。 (古賀東小) ・家庭や地域と協力し、子どもたちの読書活動を啓発する。 (古賀西小) ・児童の読書への興味・関心を高め、読書習慣の定着化を図る。語彙力や読解力を高める。 (千鳥小) ・情報を提供し、読書の興味関心を高める (花見小) ・学校図書館に親しみ、利用の仕方を体得させる。	(青柳小) ・毎月「としまだより」の発行。 ・図書館関係のイベントは、写真を撮り、その都度、青柳小公式Facebookに挙げている。 (小野小) ・学校図書館利用案内の作成やオリエンテーション前期後期の2回実施、図書館だよりなどの印刷物や学校図書館の掲示物、放送、参観日での保護者貸出等行っている。 (古賀東小) ・図書館の行事やお知らせ、子どもたちの活動の様子を、毎月1回保護者世帯数「図書館だより」を配布する。 ・フェイスブックにて図書館活動を報告する。 (古賀西小) ・読書意欲を高められるような掲示・展示 ・図書館だよりの発行 ・給食時の放送 ・利用案内の作成 ・オリエンテーションの実施 (花鶴小) ・図書館だよりを月に1回発行、掲示物や校内放送を使って広報活動を行った。 (千鳥小) ・図書館便りの発行 ・廊下掲示(季節に応じた) ・廊下などに図書の展示コーナー ・100冊読んだ児童の紹介や、児童のおすすめの本の紹介 (花見小) ・新着図書、おすすめの本の紹介、図書館だよりの発行、放送による読み聞かせや本の紹介を行なう。	(青柳小) ・読書イベントなどを周知できた。 (小野小) ・読書目標を前期・後期オリエンテーションで全員書いて、目標を達成できるように、図書ファイルにはり、自分で管理できるようにしている。 (古賀東小) ・子どもたち保護者ともに関心をもって見ている。 (古賀西小) ・図書館の利用の仕方や分類法を学び、読書への意欲が高められた。 ・掲示や図書館だよりにより、読書への興味・関心が深まった。 (千鳥小) ・児童の本の紹介や教師の本の紹介はよく借りられている。 (花見小) ・新しい本を手に取り、おすすめの本を借りに来る児童が増えた。広報したタイミングで、特に休み時間の利用が増えている。 (舞の里小) ・図書だよりでのお知らせを見て来室する児童が増えた。	(青柳小) ・児童(図書委員)発信の広報が不十分である。 (千鳥小) ・児童だけでなく保護者や地域のかたにもっと図書館を知ってもらえるよう工夫が必要である。 (花見小) ・読み物に集中しているので、9類以外の楽しい本も薦めたい。 (舞の里小) ・一部の児童しか読んでいない。	(青柳小) ・図書委員会で広報係を決めて、広報活動を行う。 (小野小) ・継続 (古賀東小) ・「図書館だより」毎月 ・「フェイスブック」読書活動があったとき (千鳥小) ・市立図書館からの40冊を図書館横の廊下に掲示しているが、場所などもっと気軽に借りることができる場所がないか検討する。 (花見小) ・季節ごとの行事に絡めたり、校内での関心に繋がる図書館内掲示を充実する。 (舞の里小) ・これからも読書活動の情報を発信していく。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(5)広報活動の充 実	(古賀中) 読書や図書館での活動に興 味・関心が持てるよう広報活動 を行う。 (古賀北中) 図書館を身近に。 (古賀東中) 図書だよりの発行や季節、行 事に沿ったテーマの図書掲示 などにより広報活動の充実。	(古賀中) 図書館だよりの発行 (古賀北中) 図書館だよりや図書展示、環境づくり。 (古賀東中) ・図書だよりの作成。 ・季節や行事ごとの展示 (図書暦や季節ごとの俳句や詩の掲示)	(古賀中) 新刊図書やおすすめの本の紹 介、行事の案内等、生徒に図書館 の情報を発信し興味関心を引くこ とができた。 (古賀北中) 図書委員会を通じて、生徒に図書 館に来てもらうこと、興味をわか せることができた。 (古賀東中) ・新刊情報や季節の俳句を告知 ・子供たちが本に興味を持ってく れた	(古賀中) 関心のある生徒しか読まない ので、他の手段での広報も必 要。 (古賀北中) 図書委員ともっと話し合い、よ りよい図書館づくりを心掛けたい。 (古賀東中) 掲示が昨年度と比べ不十分な 点が多い	(古賀中) 継続して実施予定。 (古賀北中) 学校のFacebook活用や、図書 委員とよりよい環境づくりを話し 合いながらやっていきたい。 (古賀東中) ・図書委員の子と協力して新たな 掲示を作成 ・昨年度の掲示を参考にして新た な掲示物を作成中

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学校	(6)図書館資料の充実	(青柳小) ・読書センター、学習センター、情報センターの役割を果たすため。	(青柳小) ・図書展示会で、先生方に見ていただいた。 ・児童からのリクエストを随時受付する。	(青柳小) ・教師・児童の意見を図書購入に反映できた。	(青柳小) ・校外の図書展示会だと先生方に見ていただくのが難しい。 ・購入希望を募っても集まらない。	(青柳小) ・校内の図書展示会をする。 ・先生方と直接話して授業で必要なものを聞くようにしたい。
		(古賀東小) 図書館資料を活用し主体的な学習ができる	(小野小) 児童、職員にリクエストや希望、教科等の関連を考え、児童図書・優良展示会の研修に参加したりして、図書購入を行った。	(小野小) 児童図書・優良展示会の研修に参加することで本の選び方や本に関する情報を得られて子どもたちにより良い本を選ぶことができた。	(古賀東小) 教科で使用できる資料をあつめるためにも、大きな展示会へ教諭の積極的な参加が望まれる。	(小野小) 継続
		(古賀西小) 「読書センター」および「学習・情報センター」としての機能を最大限に活かせるような蔵書を図る。	(古賀東小) 主体的に図書資料を活用し、情報収集・選択・分析する情報活用能力の向上を図る。	(古賀東小) 今年度はじめて大きな展示会へ教諭が参加でき、教科に必要な資料を多く購入することができた。	(古賀西小) 授業等で使う本の出版がまだまだ少ない分野もあるが、基本的に複本購入は行わないためにたくさんの資料が揃えられない。	(古賀東小) 教諭とともに課題解決のために資料を活用し、調べる習慣を身につける。
		(千鳥小) ・学習、資料センターとし、読書センターとしての役割の充実	(古賀西小) ・校内で図書展示会を行い、教職員による単元で利用する図書の選書購入 ・司書によるブックフェアでの選書購入	(古賀西小) 実際に教職員に手に取って本を見てもらうことで、より良い選書が行えた。 実際に選んだ本を調べ学習等に活用してもらえた。	(古賀西小) 標準冊数は達成しているが、古い蔵書がたくさんあったり、分類に偏りがある。	(古賀西小) 市立図書館や他校との相互貸借で対応する。
		(花見小) 学校図書館図書標準を目安に、子どもが興味を持って手に取り、調べ学習にも役立つ分類ごとの蔵書構成を目指す。	(花鶴小) 児童・教職員の希望、教科との関連を考えながら選書を行った。	(花鶴小) 図書館の蔵書を把握し、計画的に購入を行った。	(千鳥小) ・蔵書冊数は充実しているが、配分比率に偏りがある。これは、その分類の新刊の発行も少ないため、アンテナを広くして本の収集を行う必要がある。	(千鳥小) ・学校図書館標準だけでなく学習指導要領で紹介されている本など、学習・資料センター及び読書センターとして蔵書の中身を吟味して、計画的に収集、更新していきたい。
			(千鳥小) ・学校図書館図書標準を元に学習・資料センターとしての機能が果たせるよう収集・更新している。	(千鳥小) ・学習・資料センターとして活用できるよう計画的な資料の収集、更新ができています。 ・読書意欲を高めるような物語などの図書も購入できている。	(花見小) 担当が変わり、令和元年度からの取り組みになるので、今後年間の予算を使いながら、資料の充実を図りたい。	(花見小) 学習センターとして、調べ学習用の図書館資料をさらに充実させるべく、継続的に取り組んでいく。
			(花見小) 学校図書館図書標準より、かなり蔵書冊数が多く、内容も古いものが多いので、発行年月日の古いもの、貸し借りが少ないもの、壊れている本を除籍して廃棄。	(花見小) 例年よりも除籍数を増やして廃棄。適切な蔵書冊数、分類構成を目指す。	(舞の里小) 予算が限られている。	(舞の里小) 常に必要なものを購入できるようにアンケート等をして、把握しておく。
				(舞の里小) 学校図書館図書標準をもとに分類に偏りがないように予算内で購入している。		

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(6)図書館資料の 充実	(古賀中) 教育課程の展開に必要な学 習資料センターとしての整備を 図る。 (古賀北中) 魅力ある蔵書にする。 (古賀東中) 学校図書基準法をもとに学 習・情報センター及び読書セン ターとして学習に必要な図書 資料を収集し児童生徒の多様 な読書活動	(古賀中) ・生徒・教員が参加する選書会の実施 (古賀北中) 購入計画をもとに、計画的に購入。 (古賀東中) ・展示会を利用して本を購入 ・e-slipを利用して本を購入 ・寄贈本の受け入れ ・古い本を更新	(古賀中) 選書会で生徒のニーズに合った 本や、教員が必要とする本が購入 できた。 (古賀北中) 計画的に購入でき、リクエストに 応えることができた。 (古賀東中) 購入本 388冊 寄贈本 77冊 除籍本 1447冊	(古賀中) 本の更新を行っているが、調べ 学習で多くの本が必要な分類が なかなか進まない。 (古賀北中) 偏らないように、良書が少ない 分類の選書には特に気を付けた い。 (古賀東中) ・分類番号の100、400が少ない。 ・対象年齢を上げた専門的な研 究書が少ない	(古賀中) これからも本の更新や様々な ジャンルの資料の収集を行う。 (古賀北中) 良書の情報など、資料に関する 情報をこまめに収集する。 (古賀東中) 課題に挙げられた本を中心に 本の購入計画を立てる。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3	学校	(7)学校図書館の環境整備	(青柳小) ・来館しやすく、利用しやすい環境を作るため。	(青柳小) ・児童が探しやすくなった。	(青柳小) ・紙芝居の冊数が多いが、傷んでいるものもある。	(青柳小) ・古くなった紙芝居の廃棄をしたい。
		(古賀東小) ・子どもが安心して過ごすことのできる場所である。 ・主体的な学習に必要な資料の整備・充実を図る。	(小野小) ・感想画の取り組みで表彰された絵や、6年生の平和授業で本の紹介を図書館や廊下に掲示している。 ・読書週間のしおり、図書ファイルコンテストや「お家で本読んだよ」のプリントを展示。 ・図書委員による季節の詩や言葉を掲示している。	(小野小) ・季節や取り組みごとに図書委員のポスターや児童のコンテストプリント展示・掲示することで季節を感じるとともに、子どもたちの意欲が高まるのと保護者の関心を高めることができた。	(古賀東小) 図書委員会は多くの本を読み紹介しなければならないため、読む力を高めなければならない。	(小野小) 継続
		(古賀西小) 児童の読書への興味・関心を高め、読書習慣の定着化を図る。語彙力や読解力を高める。	(古賀東小) 読書週間・月間において、委員会による放送で本の紹介 ・POP・はがき新聞の作成と掲示	(古賀東小) 子ども同士でのおすすめする時間が増え、結果的に活性化につながった。	(古賀西小) これからいろいろな掲示物を作成して、より一層興味・関心を持たせたい。	(古賀東小) 秋の読書週間は「あったかことば」が入っている本の紹介・POP作成を行う予定
		(千鳥小) ・子どもの本への関心興味を高める	(古賀西小) ・5年生の国語の単元でPOPを作成し、本と共に図書館に展示 ・毎月、季節に合わせた掲示物や本の展示 ・毎月、クラスごとの貸出冊数の掲示	(古賀西小) ・POPは、図書館に掲示することで本がよく貸し出された。 ・クラスの貸出冊数を見て、少ないクラスは、翌月にたくさん借りに来た。	(千鳥小) ・学習や読書意欲が増すような環境を作っていく	(古賀西小) 新しい掲示物を作成中。(今年度貸出しを100冊達成した児童の掲示)
		(花見小) 子どもの居心地の良さ、集中できる読書環境にするため、図書館内の美化、利用のしやすさで環境整備を行う。	(花鶴小) 季節や行事に沿った展示、感想画や「この本読んだよ」など児童の作品の展示、図書委員が作成したPOPの展示を行った。	(花鶴小) 興味を持って本をかりてくれた。	(花見小) 図書館の広さに対し、蔵書数が多く、これまで大きさの異なる棚を増やしているので、蔵書が配架しにくい。	(千鳥小) 今後も継続
			(千鳥小) ・月ごとの掲示 ・月ごとのテーマによる本の紹介 ・学習内容に沿った展示や配架 ・読書意欲が高まるような掲示	(千鳥小) ・明るい環境になった。 ・子どもたちも展示された本を借りている。	(舞の里小) 古い掲示がまだ残っている。	(花見小) 死角を減らし、図書館全体が見渡せる空間になるよう、蔵書を整理する。
			(花見小) 図書委員との毎日の業務、委員会活動で月1回、壊れている本の修理、タイトルが消えている本の整備、雑誌の整理、新刊コーナーを設けた。	(花見小) 展示コーナーや新刊コーナーなど、配置を工夫して、本に興味がもてる環境を整備することができた。		(舞の里小) より分かりやすい掲示を目指し改善していく。
				(舞の里小) 月ごとの掲示や本の展示を変えることで、本を手に取りやすい環境をつくっている。		

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(7)学校図書館の 環境整備	<u>(古賀中)</u> 環境を整えることで、利用し やすい図書館を作り、読書活 動や学習に役立つ図書館を目 指す。 <u>(古賀北中)</u> 入館しやすい雰囲気づくり。 <u>(古賀東中)</u> 児童生徒が利用しやすい快 適な学校図書館の環境づくり、 図書の配架・レイアウトを工 夫し明るい雰囲気づくりを心掛 ける	<u>(古賀中)</u> ・月ごとのテーマ別展示 ・本の場所が分かりやすいように配置する。 <u>(古賀北中)</u> 図書委員会と協力して、入りたくなる環境をつくる。 <u>(古賀東中)</u> ・利用する生徒に呼びかけ (利用している際のマナーに対して注意) ・環境整備	<u>(古賀中)</u> 調べ学習で頻繁に利用される職 業の本、古典の本の別置を行うこと で利用しやすい。 <u>(古賀北中)</u> いつでも生徒が利用しやすいよう に、明るい図書館づくりを心掛け、 図書委員による掲示物をたくさん飾 ることができた。 <u>(古賀東中)</u> 昼休みなど休み時間の利用者が 増えた。	<u>(古賀中)</u> 大型の本が棚入らず綺麗に配 架できない分類があり、順番通り に並べられず探しにくい棚があ る。 <u>(古賀北中)</u> 入りやすい雰囲気ゆえ、マナー を守っていない生徒や不読者が まだいる。 <u>(古賀東中)</u> 過ごしやすい環境づくりの一環 として、エアコンを使用している が館内で大きな声でおしゃべりす る生徒が増えた。	<u>(古賀中)</u> テーマ展示の継続。 <u>(古賀北中)</u> マナーの徹底を呼び掛け、これ まで通り掲示物を作成。 <u>(古賀東中)</u> マナーアップポスターの作成 し、注意を呼び掛ける

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3	(8)読書感想文・読書感想画の取組	(青柳小) ・図書に親しみ、想像力を高めるため。 (小野小) 読書の感動を絵画で表現することを通じ、担任の先生の読み聞かせて読書の楽しさや素晴らしさを体験してもらい、子どもたちの考える力を育むため実施。 (古賀東小) ・読書活動の質の向上(正しく読み取り、深く考える) ・表現力の向上(正しく、美しく、わかりやすく) (古賀西小) 読書で感じたことを絵画で表現することで、その本のすばらしさを自ら体験し、他の人にも伝える。 (千鳥小) ・子どもの表現力を高める (花見小) 読書活動の発表の場を設ける。	(青柳小) ・課題・指定図書の購入。 ・要項の提案。 ・本の紹介。 ・作品郵送(搬入)。 (古賀東小) ・西日本読書感想画コンクールへ出展 ・文集「あおまつ」発行 (古賀西小) ・読書感想文・読書感想画の指定図書、課題図書の購入 ・糟屋地区審査会での審査補助 ・県の審査会への作品の搬入、搬出 ・乳腺作品の展示(校内) (花鶴小) 糟屋地区審査会、県審査会に応募した。 (千鳥小) ・全国読書感想文コンクール ・西日本読書感想画コンクール (花見小) 読書感想文・読書感想画の図書コーナーを設け、児童への宣伝を図った。 夏休み・冬休みの課題「この本よんだよ」を継続し、関心を高めた。	(青柳小) ・新年度すぐに注文したので、すぐに受け入れ、紹介ができた。 (小野小) 学校全体で感想画に取り組み、絵の技法も向上している。 H30年1月西日本読書感想画コンクール学校努力校受賞。 (古賀東小) 全校で取り組むことで、一人一人がしっかりと本と向き合うことができた。 (古賀西小) 読書感想画は学校全体で取り組んでいるので、毎年糟屋地区や県、西日本で入選している。 (花鶴小) 全校で取り組むことができた。入選した作品もあった。 (千鳥小) ・読書感想画は全校で取り組んでいる。 ・毎年入選者がいる。 (花見小) 読んだ本のイメージや感想を絵や文で表現することにより、課題への理解や異なる視点を持つことができた。 (舞の里小) 感想画は全校で取り組んでいる。	(青柳小) ・読書感想文については、希望者のみで学校全体の取り組みまでは至らない。 (古賀東小) 「あおまつ」発行については、指導・入力・構成と先生の負担が大きい。 (古賀西小) 読書感想文の取組は、ほとんどない。 (千鳥小) ・読書感想画にくらべ読書感想文の取り組みが少ない (花見小) 読書感想文や読書感想画に取り組む時間の確保が難しく、児童によって個人差が出る。 (舞の里小) 両方に取り組むのは難しい。	(青柳小) ・担任への声かけやサポートを行う。 (小野小) 継続 (古賀東小) ・全校で読書感想画への取組。 ・児童の読書感想文の原稿をパソコン入力し、構成、製本し、配布する。 (古賀西小) 夏休みの宿題などで行えば、もう少し応募が増えるかもしれない。(感想文) (千鳥小) ・豊かな心や表現力を培うため、学校職員に働きかけ感想文にも取り組めるよう支援していきたい。 (花見小) 参考になりそうな絵本や写真集、美術の本を展示し、構図や色彩を本から学ばせる。 (舞の里小) より良い作品ができるようにサポートしていく。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(8)読書感想文・読 書感想画の取組	(古賀東中) 全国読書感想文・西日本読 書感想画コンクールへ応募し、 子供が読書で得た感動などを 文章や絵で表現する事で読書 の楽しみ方・感じ方に触れさせ 読書活動の普及を図る	(古賀中) 図書館だよりでの課題図書を紹介。 (古賀北中) 取り組みへの呼びかけ。 (古賀東中) 読書感想文コンクール・読書感想画コンクールの課 題図書の購入	(古賀中) 紹介された本が貸し出されて読書 推進には繋がった。 (古賀北中) 指定図書や課題図書の展示、広 報。 (古賀東中) 何名か参加	(古賀中) 小学校と違いクラスで読書感想 画に取り組むことがないので、具 体的な活動はない。 (古賀北中) 取り組む生徒がいらないのが現 状。 (古賀東中) 参加者が少ない	(古賀北中) 美術の時間や部活動で取り組 めるように呼びかけ。 (古賀東中) 掲示板や図書だよりを活用して 告知する。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(9)親子読書会の推進	(文化課) ・家庭読書の推進と普及を図ること ・各小学校親子読書会活動の支援 ・親子読書活動の周知	(文化課) ・古賀市親子読書会事務局を務める ・校長会での趣旨説明 学校長の理解と協力を求める ・親子読書担当者会の実施(年2回) ・古賀市親子読書のつどいの実施 ・市報での紹介(特集)	(文化課) ・市内8校で独自の活動が継続していること (平成30年度まで2年間休止していた青柳小学校が活動を再開した) ・自主的に会員が定例会を行い、活動が継続している。読書活動の内容が多岐にわたっており、読書の楽しさを共有していること ・子どもが読書習慣を養っていること ・合同で読書会を開催したり、つどいを実施していること	(文化課) ・家庭での親子読書の推進 ・親子読書会活動の推進 ・各学校での活動の維持	(文化課) ・交流と読書意欲の向上を図れるつどいの実施 ・親子読書会のPR、市民への周知 ・家庭読書の呼びかけ
		(青柳小) ・親子で本に親しんでもらうため。 ・親と子のコミュニケーションの場を作るため。 (小野小) 親子で読書の楽しさを味わったり、読書を通じて他学年とも楽しい結びつきをもてるように活動。 (古賀東小) 原点は児童文学者椋鳩十が提唱した「母と子の二十分間読書」である。 読書を通して子どもと家族が語り合う時間をもつこと (古賀西小) 家庭読書よりもさらに深く、多くのことを親子で一緒に体験し、より読書への関心を高める。 (千鳥小) ・親子で読書の楽しさに触れ、感動を共有する (花見小) 親子・家庭読書の推進。	(青柳小) ・30年度は会員なしのため活動なし。 ・令和元年度は、年間5回の親子読書会を設定し、年間の会員という形ではなく都度参加を募る形で実施予定。 ・1回目は6月に七夕に関する絵本の読み聞かせ、七夕飾りづくりをした。 (小野小) 学校では月1回放課後本の紹介を交代で行い、緑陰読書や羊毛フェルトで本の紹介を行い展示した。 (古賀東小) ・マヨネーズロケット ・星の子文庫お話会 ・ハロルドになろう ・駄菓子屋さん ・クリスマス会 ・つどいへの参加他 (古賀西小) ・毎月1回、放課後に校内で活動を行った。 ・古賀市親子読書のつどいへの出演 ・親子読書担当者会への出席(年2回) (花鶴小) 七夕会、クリスマス会、他校と合同でお話会、カルタ大会などを行った。 (千鳥小) ・毎月1回会員が計画した内容で活動している。 (花見小) 5月に入会案内を出して、会員を募集。毎月1回、本に関する取り組みを行い、交流を深めている。	(青柳小) ・1回目は8世帯の親子が参加。楽しい会になった。 (小野小) 本の情報交換をしたり、読み聞かせや本の紹介の練習、また本にちなんだ工作等活動できた。 親子、他学年と友達になり共有できた。 (古賀東小) 活動を通して親と子がつながる場所となるとともに、安心して同級生、他学年との交流ができた。 子どもたちも毎月楽しみにしている。 (花鶴小) 20人近くの会員が集まり、親子で仲良く活動することができた。 (千鳥小) ・少ない人数ですが低学年から高学年まで、仲良く和気あいあいと活動している。 ・読書だけでなく、工作や料理など活動の幅は広い。 (花見小) 低学年を中心に、学年を超えた交流を行えた。おすすめの本の紹介、読み聞かせ等、参加者が本の面白さ、工作の楽しさを感じられている。 (舞の里小) 毎月、計画的に実施できている。	(青柳小) ・来年度からは、従来の形にするかは未定。 (小野小) 共働きの保護者や子どもの塾や習い事により親子読書会への入会が減っている。入会の子もたちも3年生以下となっている。 (古賀東小) 「つどい」のための練習時間に限っては、親子別々の活動となってしまう。 (古賀西小) 今年度は2年生の新規入会者が多く、1年生は1世帯だった。もっと1年生に呼びかけたい。 (花鶴小) 会員が増えるように(減らないように)声掛けを続けていきたい。 (千鳥小) ・仕事を持つ保護者が多く、また、高学年になると習い事などのために活動できなくなり、退会する親子がでてくる。 (花見小) 学校司書と会員で活動を行っていて、学校の関わりが薄く、図書館の中で行う意義を全体で共有できているかは疑問。 (舞の里小) 学年が上がると参加が厳しい。	(青柳小) ・今までの形に持っていけるか、参加者に働きかけながら活動したい。 (小野小) 図書だより等で活動を紹介していく。 (古賀東小) ・星の子文庫お話会 ・駄菓子屋さん(フェスタ参加) ・クリスマス会 ・つどいへの参加 ・フラワーアレンジメント (古賀西小) 西っ子まつりでの出店の際に案内する。 次年度の1年生に対しては、入学説明会の時に親子読書会の説明をして、会員を募る。 (千鳥小) ・家庭における読書活動の意義を紹介し、また、仕事を持つ親でも活動しやすい環境づくりが必要である。 (花見小) 相互の関わりを深めるために、今後どのような活動を行うのか検討していく必要がある。 (舞の里小) 呼びかけ等広報活動を行っていく。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3	(10)学校図書館の 地域開放	(学校教育課) 学校図書館の「読書セン ター」及び「学習・情報セン ター」としての機能に、地域住 民が集う場としての機能を加 え、生涯学習に貢献するとと もに地域力向上を図る (青柳小) ・読書を通して、大人と子ども たちのコミュニケーションの場 にするため。 ・地域社会の向上に役立てる ため。 ・生涯学習の場を提供するた め。 (古賀東小) 学校の図書館を地域住民に 開放することにより、保護者や 地域住民の生涯学習に貢献す る。 (古賀西小) 地域に開放することにより、 学校図書館と地域のつながり を図るとともに市民の生涯学 習に貢献する。 (千鳥小) ・市民に読書に親しんでもらう (花見小) 家庭・地域との連携を図り、 地域力の向上を図る。	(学校教育課) 平成29年度から市立図書館の一般図書を定期的に 貸し出してもらい、各学校図書館にコーナーを設置し 市民に提供している。 (青柳小) ・としよだよりや学校通信で、地域開放のお知らせを出 している。 (小野小) 学校では、地域一般開放図書館の利用案内を作り、 毎月の図書だよりに地域の方へお知らせや、市立図 書館からの図書の配本について載せて地域の方へ学 校だよりとともに回覧してもらっている。 (古賀東小) ・学校開校日(司書が出張等で不在の場合以外の日) ・貸出期間は1か月 ・一人5冊まで (古賀西小) 市立図書館より地域の方向けの一般書を貸し出して もらっているので、コーナーを設置し、その本を提供し ている。 (千鳥小) ・毎月1回、市立図書館から40冊の本が届く ・新聞の閲覧や自由に図書を借りることができる (花見小) 月～金曜日の午前10時～12時、午後2時30分～ 4時50分の間、開館し、一般開放を行う。	(学校教育課) 地域の方が気軽に立ち寄るなど 開放したことの成果がでている。 (青柳小) ・特になし。 (小野小) 市立図書館からの図書の配本 は、学校図書館にはない一般向け なので子どもたち、保護者にも好評 である。 オープンスクールのスタンスで地 域の方等誰でも気軽に学校図書館 を活用することができるようにした。 (古賀東小) 読み聞かせの地域ボランティアさ んを中心に活用していただいてい る。 (古賀西小) 地域の方が視察に来られたり、親 子読書会の保護者の方が読んだり している。 (千鳥小) ・利用者からは歓迎されている (花見小) 職員室の前や、図書館の入口に 一般開放を掲示しているが、子ども が普段授業で活発に利用している ので、実際の利用者はほとんど無 い。 (舞の里小) 参観などで保護者が市立図書館 の本や図書室の本を読む姿を多く 見られるようになった。	(学校教育課) 今後も利用しやすくなるよう改 善しながら図書館開放の周知に ついて継続して行っていきたい。 (青柳小) ・利用者はいなかった。 (古賀東小) 読み聞かせボランティアさん、 保護者以外の活用がほぼない。 (古賀西小) 近くに市立図書館があるため、 利用がほとんどない。 (花鶴小) 校区内に図書館があるせいか 一般の利用はなかった。呼びか けの方法を考える必要がある。 (千鳥小) ・まだまだ、利用者が少ないため 周知が必要である ・利用しやすい環境を作る必要 がある ・本の返却が遅くなる時がある (学校に用事があるときに借りて 返すため) (花見小) 利用が多い児童とのすみ分け で、どのように利用してもらうか の検討が課題。 (舞の里小) 借りられる本の種類が限られて いる。読んでいる姿は見られるが 貸出しまではできていない。	(青柳小) ・定期的に開放についてのお知 らせを出す。 (小野小) 継続 (古賀東小) 毎月、古賀市立図書館より40 冊貸出があることを図書館だより 等で定期的にお知らせをする。 (古賀西小) 校内の学童保育所に未就園児 とその保護者を対象に未就学児 教室が行われているので、地域 開放の案内を渡す。 (千鳥小) ・より多くの方に利用してもらうた め周知を図っていきたい (花見小) 古賀全体で、一般開放をどのよ うに利用してもらうのが良いか、 他校の意見も参考に学校全体で の検討が必要。 (舞の里小) 利用しやすい環境づくりに努め る。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(10)学校図書館の 地域開放	(古賀北中) 来てもらう。 (古賀東中) 学校の図書館を市民に開放 する事で生涯学習に貢献し、 保護者や地域住民との連携を 一層深め「学びの場を拠点とし た地域コミュニティーの形成」 に寄与する。	(古賀中) 子育てサロンの時に一般の方が来るので乳幼児向 けの絵本等を勧める (古賀北中) 学校の広報や図書館だよりでも開放について載せ る。 (古賀東中) 週に三日、火曜～木曜(祝日は除く)一般開放する。 開放日カレンダーを作成、FACEBOOKに公開	(古賀中) 絵本を通してコミュニケーションを したり、息抜きに本を借りたりなど 役立った。 (古賀北中) らっこくらぶ(子ども向け絵本ひろ ば)をして、来館者が増えた。 (古賀東中) 少数の利用者あり	(古賀中) 特に学校に用がない方は、市 立図書館が近いこともあり、あえ て学校図書館には来ない。 (古賀北中) 継続的に来館者がいない。 (古賀東中) 利用者が少ない	(古賀中) <u>継続して行う。</u> (古賀北中) <u>新規でも継続でももっと広報し た方がいい。</u> (古賀東中) <u>火曜～木曜(祝日は除く)の日 以外も利用者が来たら受け入れ る。(図書館に司書がいる場合)</u>
	(11)適応指導教室 の取組	(学校教育課) 子どもの読書への興味・関心 を高め読書習慣の定着を図 り、読解力や表現力を育成す る	(学校教育課) 学習活動の一環として直接図書館で選本している。	(学校教育課) 読書習慣が身につくにつれある子も 見受けられるようになった (文化課) 平成29年度 392冊 平成30年度 91冊	(学校教育課) 特に中学生には、本人のキャリ アにつながるような選本の能力 を身に付けることが課題である。	(学校教育課) 継続

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
3 学 校	(12)高等学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、高等学校との連携を深める (古賀竟成館高校) 朝読書 各クラスごと、毎月いろいろなジャンルの本を読むよう選定して、幅広い知識、教養を身に付け、また想像力の育成を目指している。 (玄界高等学校) 図書委員による訪問朗読会 本校の図書委員会活動を通じて、地域子ども達と交流し、読書に親しむ機会を提供するとともに、子ども達の読書への関心を高める。 本校図書委員の本を介してのボランティア活動や社会参加をすすめることで、自主的・実践的な態度を育てる。	(文化課) インターンシップ(就業体験)の受入れ (古賀竟成館高校) 別紙 (玄界高等学校) 令和元年度は、7月23日に舞の里学童保育所と千鳥学童保育所を本校図書委員会委員7名と教員3名で訪問した。絵本の絵をプロジェクタで投影しながら、また、大型紙芝居を本校図書委員が登場人物の役になり朗読した。さらに、「しかけ絵本」を見せながら説明した。 平成30年度は、小野、青柳、古賀西、花鶴の各学童保育所を訪問した。(古賀市社会福祉協議会からの助成金で購入した機材等を用いて活動)	(文化課) インターンシップを通して、図書館の持つ機能と必要性、利用方法を伝えることができた。 (古賀竟成館高校) 朝読書をきっかけに、読書が趣味になったり、月末に感想文を書くようにしているので、読む力だけでなく、書く力の向上にもつながっている。 (玄界高等学校) 絵本と紙芝居は、登場人物同士の絶妙な掛け合いが好評であった。 また、図書委員がそれぞれ選んだ「しかけ絵本」を工夫して見せ、子ども達と楽しく交流できた。本校図書委員も、子ども達を楽しませることができたことで、自信を持ち、成長することができたと思う。	(文化課) ・高校生を含めた10代利用者の少なさ ・学校との連携 (古賀竟成館高校) 最後まで読み終えない場合、図書室に同じ本を置き、続きが読めるようにしている。 (玄界高等学校) 図書委員生徒は、部活動や生徒会活動と並行して、図書委員会活動をしており、全員揃っての練習が困難である。また、参加したという意欲はあるが、部活動等で多忙のため、参加できない生徒もいる。	(文化課) ・事業の継続 (古賀竟成館高校) 近年、映画化された本や芥川賞などを受賞した本。また、生徒の勤労観、職業観を育むような本を読ませたい。 (玄界高等学校) 夏休みと冬休みに、計4か所の学童保育所の訪問を、毎年継続して実施している。令和元年度冬休みは、古賀東学童保育所と花見学童保育所の訪問を計画している。今後も継続していきたい。
	(13)特別支援学校の取組	(文化課) 子どもの豊かな読書に資するため、特別支援学校との連携を深める (古賀特別支援学校高等部) 春の読書週間、秋の読書週間、団体貸出の利用 ・図書コーナーの利用の仕方 や本の取り扱い方について学習し、本に親しめるようにする。 ・生徒の読書に関する興味関心を高め、情操を育成する。	(文化課) ・団体貸出し ・読書ノート配布おはなし会 (古賀特別支援学校高等部) 春の読書週間では、国語や生活単元学習の授業をとおして、本の取り扱い方や本の借り方・返し方等を学習している。また、秋の読書週間では、近隣の市立図書館より団体貸出を利用して、本校にない図書や生徒の興味のある図書を借りて、特設の図書コーナーを設置している。 また、図書委員会の活動では、担当になっている日の昼休みに図書館へ行き、貸出や返却の仕事を行ったり、古い本や修理が必要である本を選定したりしている。その他に学部集会等で、新着図書や自ら選んだおススメの本の紹介を行っている。 訪問教育では、毎月10冊程度、団体貸出を利用して、授業に活用している。生活単元や修学旅行などの事前学習の際に、絵本の読み聞かせを行っている。	(文化課) ・継続的な団体貸出し 平成29年度 352冊 平成30年度 455冊 (小・中学部、高等部合算) 令和元年度(4月～8月)102冊 (小・中学部、高等部合算) (古賀特別支援学校高等部) 日頃、本に触れることのない生徒も、その時期には、休み時間や学習の時間をとおして本を手にとって読む姿が見られた。 また、団体貸出では、学校にない図書もあるため、積極的に本を手に取り、授業に活用したり、読書したりすることができた。	(文化課) ・学校との連携 (古賀特別支援学校高等部) 読書週間が過ぎてしまうと、特定の生徒しか図書コーナーを利用しないという現状がある。 また、学習において、調べ学習等で積極的に図書コーナーの図書を活用する場面が少ないという課題がある。	(文化課) ・事業の継続 (古賀特別支援学校高等部) 年に2回の読書週間は継続するとともに、図書館資料の分類配列を適切にし、その目録をさらに整備することが今後の具体的取組事項である。分類ごとに配架することによって、知りたい内容の本を適切に選ぶことができたり、どこに返却するのか明確になったりする。 また、本を選ぶ機会が少ない生徒に対して、どのような働きかけをするか、本の選定や授業の活用方法など、他の職員と相談しながら、学校全体で図書館教育のよりよい活動が行えるよう努めたい。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
4 図書館	(1)「おはなし会」や「図書館まつり」の実施	(文化課) 読書関連行事を通して、読書意欲の向上に努める	(文化課) ・どうようおはなし会(毎週土曜日 11:00～11:30) ・赤ちゃんおはなし会(月1回2部制) ・小さい子のおはなし会(月1回) ・小学生向けおはなし会(年5回実施) ・子ども映画会(年7回) ・おはなし会スペシャル ・図書館まつり めりえなど	(文化課) ・就学前の子どもが年齢に合わせた読書活動に継続して参加できた。 ・おはなし会では参加者数が増え、父親の参加も増えている。 ・子ども映画会は上映回数を減らし、学校への周知を行い参加者を増やしている。	(文化課) ・各行事に参加する子どもの低年齢化。 ・小学生むけおはなし会の参加を促すために工夫を凝らす必要がある。	(文化課) ・事業の継続
	(2)乳幼児と保護者への支援	(文化課) ・子どもの健やかな成長をうながす家庭での絵本の読み聞かせのすすめ ・家庭での読書の支援 (子育て支援課) 七ヶ月っこ広場・1歳誕生広場、2歳元気っ子) ・子育て中の親子居場所や子育てに関する相談・情報提供を行い、育児不安や子育ての不安の軽減を図る。 ・各年齢の発達を知り、親子で触れ合い楽しいひと時を過ごす。	(文化課) ・赤ちゃんおはなし会、小さい子のおはなし会の実施 ・乳幼児の発達段階に合わせた乳幼児向け絵本コーナーの設置 (赤ちゃん向け、0.1.2歳向け、幼児向けおすすめ絵本) (子育て支援課) ・各事業、子ども達の発達や栄養について伝えた後、親子ふれあい遊び・絵本朗読み聞かせを行っています。	(文化課) ・おはなし会に乳幼児を連れての参加が増え、リピーターも多くみられる。 ・友人同士で来館する母親も多く、図書館が乳幼児や母親への読書活動だけでなく、憩いの場としてのひとつの選択肢となっていることがうかがえる。 (子育て支援課) 親子でホッとできる共有した空間の中で、絵本に触れ合う楽しいひと時を過ごすことができています。絵本の読み聞かせになると、保護者の膝にちょこんと座りお話に耳を傾ける体制になります。にこにこ笑ったり、声をあげて楽しさを表現する子どもの姿を目の前にすると、保護者の表情も和らぎ、親子で楽しむ時間が持てるようになりました。	(文化課) ・子育ての支援となる読書活動をすすめること(ふれあいの読書) ・乳幼児期の読書の推進(この時期に適した図書の選書、収集) (子育て支援課) 授乳や泣きぐずりが気になり、母親が事業に集中しづらい状況が時折あるので、そっと寄り添ったりしながら、親子がリラックスできるように努めていきたいです。	(子育て支援課) 引き続き、今後もさらに親子で楽しんでいただけるように環境を整えていきます。
	(3)読書ノート事業の取組	(文化課) 小学1年生を対象として、どくしょノートをきっかけに市立図書館への来館および利用を促す。読書の楽しみを知らせ、豊かな心を育てる。	(文化課) 市内小学校1学年児童全員へ「どくしょノート」を配付した。図書館職員が出向き、おはなし会を行い、どくしょノートを手渡す活動を行った。 平成30年度は特別支援学校へ訪問し、どくしょノートを配布することができた。令和元年度も訪問する予定。	(文化課) 各小学校からの反応もよく、また来てほしいとの意見が多かったので、毎年、行っていきたい。	(文化課) 転入生用に少し多めに配付しているが、実際手渡せているか把握できていない。	(文化課) ・配布後、図書館にどくしょノートを持ってきて、読書シールを希望する児童の姿が見られた。事業を継続して行いたい。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
4 図書館	(4)「古賀市中学生読書サポーター」の取組	(文化課) 読書の楽しさ、大切さを周りに伝える読書サポーターの育成	(文化課) 平成30年度及び平成元年度は夏季休業中に全3回の読み聞かせ講座を行った。 平成30年度の取組内容 ・図書館⇒「どうようおはなし会プラス」にて小学生むけおはなし会 ・地域⇒「子どもわくわくフェスタ」おはなしの部屋に参加 ・各中学校では、おすすめの本の冊子づくり、季節の展示、本の帯作成、本の紹介、おはなし会、掲示物(POP、ポスターなど)等、多彩な活動を行った。 令和元年度も図書館・地域では同様に活動する予定。年度後半は学校や図書館などで読書の楽しさを周りに伝える活動を工夫して行えるよう周知していく。 (古賀東中) 古賀市立図書館の読書サポーターを通じて小学生、もしくは園児達に読み聞かせを行った。	(文化課) 図書館での読み聞かせ講座により、読み聞かせする側のことを知ることができ、本を選ぶ大切さを理解し、読書サポーターとしての活動や学校図書館での活動に役立った。	(文化課) ・すべての中学校に1～2名中学生読書サポーターが存在するのが望ましいと考え募集しているが、実際には偏りがあり、なかなかすべての学校からの応募が難しい。 ・講座終了後の図書館や地域、学校での読書サポーターの活動の場の工夫	(文化課) 「福岡県子どもの読書活動推進事業」を活用し、読書活動応援隊として読書ボランティア団体と協力しながら中学生読書サポーター事業を継続していく
	(5)特製コーナーの設置	(文化課) ・子どもの発達段階や興味関心、テーマによる特設コーナーを設けることにより、図書の利用の促進を図る ・子ども(10代)の知的活動を推進し、多様な興味・関心に応える	(文化課) ・12～18歳対象のYAコーナーの見直し、拡充 ・読書感想文課題図書・読書感想画指定図書コーナーの設置 ・関連図書の充実と隣接した閲覧スペースで、利用を促進	(文化課) YAコーナーを拡充することにより、読書に関心のある中学生・高校生の読書意欲を喚起し、より本を選びやすい環境を整えることができた。	(文化課) 対象の利用が少ない	(文化課) 事業の継続
	(6)子どもへの学習活動支援の充実	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、学校への調べ学習資料の充実や、来館した子どもへのレファレンスサービスを行う	(文化課) ・学校の授業に対応できる調べ学習のための図書館資料の充実 ・自由研究図書コーナーをはじめとした子どもへのレファレンスサービスなどの充実		(文化課) どの学校も教科を同じ時期に学習するため同時期に同じ内容を調べる子どもが多く対応に苦慮する	(文化課) 事業の継続
	(7)障がいのある子どもや来館困難な子どもへの支援	(福祉課) 古賀市障害者移動支援事業 ・屋内での移動に困難ある障がい者の支援を行うことで、地域における生活を支援し、自立や社会参加の促進を図ることを目的とする。 (文化課) 障がいのある子どもや来館困難な子どもが、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。	(福祉課) 障がい者が、古賀市と契約を結ぶヘルパー事業所を利用し、社会生活上不可欠な外出や余暇活動等の社会参加のための外出の移動支援を行った。 (文化課) 適応指導教室「あすなる教室」や特別支援学校等の児童生徒が、読書を通して視野を広げ、知識を得ることができるよう支援する。	(福祉課) 具体的な件数は把握していないが、本事業を利用して、図書館を利用する障がい者の方がいる。 (文化課) 定期的に、各団体の貸出しを行っている。「あすなる教室」の生徒は、来館し自ら借りる資料を選ぶなどの活動もしている。	(福祉課) 継続して事業を利用する方もいるが、新規利用者への十分な事業周知ができていないこと。 (文化課) 個人で来館できない子どもへの支援	(福祉課) 引き続き、移動支援事業を行い、障がい者の外出を支援し、地域における生活及び社会参加を促す。 (文化課) 事業の継続 生徒同士のコミュニケーションのツールや情報収集の手段として団体貸出しなどを行い、支援していく。

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系	目的	内容	成果	課題	今後
計画の柱2 図書館間及び子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携・協力に向けたネットワーク化					
1 図書館間の連携と協力	(文化課) 子どもの読書活動を推進するため、他館と図書資料の相互貸借や情報収集を行う (青柳小) ・自館だけではなく、他館と協力して読書活動を推進していくため。 (花見小) 子どもの読書活動を推進するため、他館と図書資料の相互貸借や情報収集を行う。 (古賀東中) 各学校や市立図書館で互いに連携・協力し、子供の読書活動を推進する。	(文化課) ・他館との資料の相互貸借 ・福岡県図書館情報ネットワークシステムへの参加 ・福岡県公共図書館協議会等での情報収集 (青柳小) ・市内では、司書教諭、司書合同研修会、司書研修会を行った。 ・県立図書館から学校貸出図書セットを借りて、学級文庫として教室に置いた。(中学年・高学年) (小野小) 学校図書館間の連携は、古賀市内学校司書研修会が年に数回行われている。 (花見小) 他館との相互貸借。 (古賀中) ・調べ学習の際に必要な資料の相互貸借。 ・優良図書の情報交換 (古賀北中) 相互貸借 (古賀東中) 他校から要請があれば、本の貸し出しを行う。 市立図書館の読書ボランティアを募集を告知	(文化課) 学校や読書ボランティアからの依頼に応えることで、子どもの学習活動の充実や読書推進につながっている (青柳小) ・研修会で、情報交換ができた。 ・県立図書館のセットは、名作を集めたもので安心して児童に読ませることができた。 (小野小) 学校司書研修会が行われているので、本や教科書の貸借、本の購入・選定、他図書館業務について連携・協力できている。 (花見小) 市立図書館への依頼をあまり、行っていない。 (古賀北中) 今すぐ欲しい資料もすぐ取り寄せられて便利。幅広い資料が提供できる。 (古賀東中) 他校から要請された本を貸出 昨年度は読書ボランティアに参加	(青柳小) ・特になし。 (花見小) 教諭達も授業や学校行事で忙しく、事前打ち合わせの時間が取りにくい。使用時間割を中心に授業として利用してもらうよう徹底中。 (古賀東中) 今年度は読書ボランティアの参加者が集まらなかった。	(文化課) 事業の継続 (青柳小) ・司書の研鑽と情報交換を継続して行う。 (小野小) 継続 (花見小) 各学年の要望を、教諭と連携して行う。 (古賀北中) 司書部会でも情報交換を続けたい。 (古賀東中) 図書だよりの告知だけではなく、応募用紙を全クラスに配布する

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2	(1)図書館等と学校	(文化課) 図書館の種別を超えてネットワークを作り、学校教育の支援と児童・生徒の読書の推進をはかる。	(文化課) ・校長会での趣旨説明、利用の呼びかけ ・ <u>小学1年生に読書ノート配布</u> ・小学生の図書館施設見学受入 ・中学生読書サポーター養成 ・司書研修会への参加 ・団体貸出 ・小学生むけおはなし会実施	(文化課) <u>小学生に直にアピールできた</u>	(文化課) ・ <u>学校図書館への支援</u> ・ <u>中学校、高等学校との連携</u>	(文化課) ・ <u>市立図書館のアピール</u> ・ <u>学校教育課指導係、司書教諭、学校司書と情報交換を増やす</u> ・ <u>司書研修会への定期的な参加</u> ・ <u>連携について共通理解できるようにする。</u>
		(青柳小) ・ <u>自館だけではなく、他館と協力して読書活動を推進していくため。</u> (古賀東小) ・ <u>多くの情報の中から必要な資料を選んで、学習することができる。</u> (古賀西小) ・ <u>連携し、相互貸借等を行うことにより、「学習・情報センター」としての学校図書館の役割をより充実させる。</u> (花見小) ・ <u>市立図書館の連携と、生徒の読書の推進をはかる。</u> (古賀東中) ・ <u>各教科の授業で必要な資料を準備し、子供たちの学習をサポートする。</u>	(青柳小) ・ <u>調べ学習をするとき、学校図書館で足りない資料を市立図書館で借りた。</u> (小野小) ・ <u>授業に必要な本が学校にない場合等、市立図書館から借りている。</u> ・ <u>新1年生へ授業時間に市立図書館の読書ノート配付と読み聞かせ、ことちゃん来校の協力。</u> (古賀東小) ・ <u>市立図書館より貸借</u> (古賀西小) ・ <u>調べ学習など、多くの資料が必要な時に利用し、相互貸借を行った。</u> (千鳥小) ・ <u>学習に必要な資料の貸借</u> ・ <u>1年生への読書ノートの配布</u> (花見小) ・ <u>読書ノートの「おはなし会」で新1年生に読書ノートを配布。読書・学校図書館・市立図書館への関心を高めた。</u> (古賀中) ・ <u>調べ学習の際の相互貸借</u> (古賀東中) ・ <u>授業での図書館利用を推進</u> ・ <u>オリエンテーションを開催し図書館の利用の仕方を説明する</u>	(青柳小) ・ <u>市立図書館の司書に相談に乗ってもらえてよかった。</u> (小野小) ・ <u>ことちゃん来校で1年生は、市立図書館や読書について関心を持ち喜んでいた。</u> (古賀東小) ・ <u>授業の活性化につながった。</u> (古賀西小) ・ <u>提供資料の充実を図ることができた。</u> (千鳥小) ・ <u>学習で利用している</u> ・ <u>読書ノート配布時のお話会など読書の楽しさを感じている</u> (花見小) ・ <u>1年生など低学年の利用が増えた。絵本だけでなく、ページの厚い本を借りる子が増えた。</u> (舞の里小) ・ <u>1年生が読書ノートをもって本を借りに来ていた。</u> (古賀中) ・ <u>調べ学習の際に必要な資料を十分準備することができた。</u> (古賀北中) ・ <u>中学生向けもあるし、一般向けの資料もあり、調べ学習に活用できる。</u> (古賀東中) ・ <u>放課後、勉強しに利用する生徒が増えた。</u>	(青柳小) ・ <u>校区としては市立図書館から遠いので、児童が気軽に市立図書館に行けない。</u> (古賀東小) ・ <u>先生方の要望が急に必要な場合が多い。</u> (古賀西小) ・ <u>学校間での物流システムがない。</u> (花見小) ・ <u>福岡市では総合図書館内に学校図書館支援センターがあり、学習支援セットとして希望の本を配送してくれる。</u> (舞の里小) ・ <u>一部に偏りがあり、個人差がある。</u> (古賀北中) ・ <u>車がないので冊数が多いときなど、学校図書館向けに配送してほしい。</u> (古賀東中) ・ <u>必要な資料が少ないと指摘を受けた</u>	(青柳小) ・ <u>市立図書館の良さ(資料が充実している、など)を児童に伝えていきたい。</u> (小野小) ・ <u>継続</u> (古賀東小) ・ <u>ユニバーサルデザインについて(4年生)</u> ・ <u>世界の人々の暮らし(6年生)</u> (古賀西小) ・ <u>地域開放用の市民用の一般図書のように使送便などで対応してほしい。</u> (花見小) ・ <u>地域への宣伝にもなり、連携しやすい仕組みづくりの検討を望む。</u> (古賀中) ・ <u>継続して調べ学習の際に利用する。</u> (古賀東中) ・ <u>授業で何が必要か把握し、足りないものは他校や市立図書館に貸出しを頼む</u>

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(2)図書館等と家庭・地域	(文化課) ・本をとおして親と子がふれあう ・家庭読書の推進と普及 ・地域の読書推進 (花見小) 本をとおして親子が触れ合えるよう、家庭での読書の推進を図る。	(文化課) ・ブックスタート、セカンドブックの絵本の配布 ・出前講座 ・地域文庫、学童保育への団体貸出し ・地域文庫連絡会の実施 (花見小) 家庭読書の日を設定。毎月23日は5冊の貸出し。図書館だよりで告知。一般開放を行っている。	(文化課) ・ブックスタート事業で赤ちゃん絵本の役割を直接保護者に簡潔に説明できた。 ・セカンドブックでは、直に絵本を手渡すことで、家庭読書をすすめる声が増えた。 0～6歳の登録者人数 平成29年度 216人 平成30年度 179人 0～6歳の貸出冊数 平成29年度 30,960冊 平成30年度 28,078冊 児童書貸出冊数 平成29年度 142,593冊 平成30年度 137,954冊 (花見小) 通常の貸出し冊数が増える為、楽しみにしている児童が多い。兄弟に本を読んであげたり、両親に借りた本を見せたという声が聞かれた。	(文化課) ・地域と家庭に、家庭読書の呼びかけをする (花見小) 家庭読書の呼びかけを行っているが、本を読む家庭・読まない家庭で開きがある。	(文化課) ・ブックスタート、セカンドブック事業を継続し、家庭読書の推進をするとともに、地域文庫や学校図書館の一般開放事業等の周知に努める (花見小) 学校図書館の一般開放を掲示する。
	(3)図書館等と読書ボランティア団体	(文化課) ・子どもを対象とした読書ボランティア団体へ知識や技術の向上のための講座や研修会を開催し、活動の活性化に向けて支援する。 ・読書ボランティア団体に協力を求め、読書活動の活性化につながる取組を連携して行う。	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・読書ボランティア養成講座の開催 ・図書館や他団体で開催される読書講座やイベントなどの情報提供 ・読書ボランティア団体交流会の開催 ・おはなし会(どよう・赤ちゃん・小さい子)のボランティア ・H30年度「布の絵本づくり講座」「読書ボランティア団体交流会」での講師 ・H30年度、令和元年度「中学生読書サポーター講座」の講師	(文化課) ・継続した支援により、読書ボランティア団体の活動の充実が図られた。 ・読書ボランティア団体交流会の開催により、図書館やボランティア間の交流が深められた。 ・読書ボランティア団体との連携により、読書活動の活性化が図られた。		(文化課) 事業の継続
	(4)図書館等と保育所(園)・幼稚園	(文化課) 保育所(園)、幼稚園での子どもの読書活動を支援する	(文化課) ・団体貸出(図書・大型絵本・パネルシアターなど) ・図書館で開催する読書講座やイベントなどの案内送付 ・「こがめルーム」でのおはなし会の受け入れ	(文化課) ・団体貸出により、保育所(園)・幼稚園での読書活動の充実が図られた。 ・新設された保育所の団体登録が増えている。		(文化課) 支援事業の継続

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2	(5)学校と家庭・地域	(青柳小) ・家庭・地域とともに育てる教育を実践し、信頼に応える学校をつくるため。	(青柳小) ・平日10分、土日30分の読書推進。	(青柳小) ・読書意欲向上が見られた。	(青柳小) ・読書習慣の定着にはつながらなかった。(48.3%)	(青柳小) ・学校の重点目標に入れて継続。
		(古賀東小) 読書をすることで、家庭内のコミュニケーションを深める。	(小野小) ・「学校・お家・地域で本を読もう」のスローガンを掲げて読書ボランティアや地域の方を招待したりして読書集会を行っている。 ・親子読書会で月1回放課後読書会を行っている。	(小野小) 子どもと一緒に読書する時間のない家庭も多いと思われるので「こんな本読んだ」、とお家の人と話をするように取り組み、お父さんの読んでいた本を読んでいたたり、本を購入してもらったりする子どもも増えた。	(小野小) 地域に読書を広めるのは、保護者関係や見守り隊の方など限られている。 地域で読書を普及するのであれば、市全体で取り組んだり、盛り上げたほうがよいと思われる。	(小野小) 継続
		(古賀西小) 家庭での読書習慣を定着させるため、親子で読書の興味・関心を高める。	(古賀東小) GW等の長い連休を使い「家読カード」への取組を行う。	(古賀東小) 家族で本を読み感想を言い合うことで、家族間で交流ができた。	(古賀東小) 子どもたちは楽しみであるが、まったく関心のない保護者もいる。	(古賀東小) 学校内の状況をみて実施する。
		(千鳥小) ・地域の方々との交流	(古賀西小) 「お家で読書(うちどく)」を行い、同じ本を家族で共有し、感想を伝え合う。(年3回実施)	(古賀西小) 読書を通じて、親子でのコミュニケーションが深まった。	(古賀西小) しっかりと取り組んでいる家庭とそうではない家庭とがある。	(古賀西小) うちどくを行う前には、図書館だよりなどで、見本となるうちどくを紹介したり、取り組む意義を伝えられるように図る。
		(花見小) 本を通して親と子がふれあう。家庭読書の推進と普及。地域の読書の推進。	(花鶴小) 図書館だよりを月に1回発行し、図書館利用の様子を保護者に発信した。	(千鳥小) ・地域の方々とのふれあいや、親子での読書活動などを通して、学校だけでなく家庭でも読書の時間を持つことができる	(千鳥小) ・家読の重要性を家庭に周知する必要がある	(花見小) 学校図書館の一般開放を掲示する。
		(古賀東中) 家庭内で保護者と子供が同じ本を読む時間を持つことで読書の楽しさに触れ感動を共有させること、家庭における読書活動の重要性を認識してもらう	(千鳥小) ・地域開放で来校された方とのふれあい ・親子読書会の実施 ・家庭読書の推奨	(古賀東小) 夏休みのチャレンジカードの項目に読書を追加した。	(古賀東中) 告知はしているが家庭内で読書活動が普及しているか確認できていない。	(舞の里小) 検討していく。
			(花見小) 学校図書館の一般開放用図書を図書館から借り、配架している。	(花見小) 読書ボランティアの読み聞かせがさかん。	(花見小) 家庭に、家庭読書の呼びかけを行う。	(古賀東中) アンケート調査を行う
			(古賀東中) 子ども読書の日を告知 ・図書館に入ってきた新刊情報を図書だよりで紹介。 ・図書館の開放	(舞の里小) 参観日の時に図書館を利用する親子を確認した。		
			(花鶴学童保育所) ・年に1回～2回、玄界高校の図書部の人達によるスライドや読み聞かせを実施			

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 子 ど も を 対 象 と し た 読 書 活 動 推 進 機 関 、 団 体 と の 連 携 と 協 力	(6)学校と読書ボランティア団体	(文化課) 学校での読書活動に読書ボランティアを活用し、子どもの読書の意欲を高める。	(文化課) ・朝の読書の時間や読書週間、フェスタなどでの読み聞かせなど	(文化課) 読書ボランティア団体の活用により、学校での読書活動の充実が図られた。	(青柳小) ・「おはなしの木」のメンバーがまだまだ少ない。	(文化課) 事業の継続
		(青柳小) ・読書団体と連携し、読書活動を通して子どもを育てるため。	(青柳小) ・週1回朝の読み聞かせ。(おはなしの木) ・夏休み夜のお話会。(おはなしの木) ・年2回のおはなし会。(古賀語りの会)	(青柳小) ・熱心に話を聞く子どもたちの姿が見られた。 ・読まれた本を図書室に探しにくる子どももいて、読書への意欲、関心が高まっていた。	(古賀東小) ・運動会等行事前は着替え等で実施できない。	(青柳小) ・保護者同士で声かけをしていたく。
		(古賀東小) 読み聞かせを通じ、自ら意欲的に読む読書へつながること	(小野小) ・小さな野原の会 朝活動10分間(火・水曜)月1・2回読み聞かせ ・古賀子どもの本の交流会 お話会を年1・2回(1～3年生2回)全クラス授業1時間と室で行っている。	(小野小) 外部からのボランティアの読み聞かせで、たくさん本を知り、聞く態度も上手になっている。 お話会の回数は、学校行事が多くなり担任の負担を考慮して低学年2回、高学年1回としている。	(古賀西小) 保護者ボランティアの人数をもっと増やしていきたい。	(小野小) 継続
		(古賀西小) 読書ボランティアを活用し、児童の読書への興味・関心を高める。	(古賀東小) 月曜日 昼読 火曜日(4.5.6学年)朝読 水曜日(1.2.3学年)朝読 年2回お話会	(古賀東小) 朝読は毎週一年生から6年生まで実施することで、たくさん本を知るだけでなく、落ち着いて授業に臨むことができる。	(千鳥小) ・ボランティアと連携をとりながら推進	(古賀東小) 通常通り、左に同じ
		(花見小) 家庭・地域との連携を図る。	(古賀西小) ・保護者ボランティアによる朝の読み聞かせ(月2回) ・古賀子どもの本の交流会・こが語りの会の方によるお話会	(古賀西小) 読み聞かせやブックトークで使われた本を多くの児童が借りに来た。	(花見小) 以前は保護者で構成されていたが、参加者の減少により、卒業生の保護者に推移。仕事など多忙ながら、児童の為に何とか協力いただいている。	(古賀西小) PTCAだよりの1コマに活動の報告を載せたり、PTCA総会時に読み聞かせボランティアの趣旨を伝え、会員を募集する。
			(花鶴小) 保護者ボランティアによる朝の読み聞かせや昼休みのお話会、講師を招いてのお話会を行った。	(古賀西小) 読み聞かせやブックトークで使用された本を多くの児童が借りに来た。	(舞の里小) 新規会員の確保が難しい。	(花見小) 学校全体で、年に数回の話し合いなど課題を話していくことが必要。
			(千鳥小) ・お話会やブックトークの実施	(花鶴小) 紹介してもらったり、読み聞かせしてもらった本をかりに来る児童の姿が見られた。		(花見小) 学校全体で、年に数回の話し合いなど課題を話していくことが必要。
			(花見小) 地域ボランティアまつぼっくりの活用で、月にほぼ2回協力いただいている。司書が窓口。学校との連携も必要か。	(千鳥小) ・お話会の実施により、自分が選ばない本などの読書の幅が広がり楽しめた。 ・意欲的に読書をする児童が増えた		(花見小) 学校全体で、年に数回の話し合いなど課題を話していくことが必要。
				(花見小) 子どもが教職員以外の大人と接することにより、子どもに刺激と豊かな情緒を与えられている。		(花見小) 学校全体で、年に数回の話し合いなど課題を話していくことが必要。
			(舞の里小) 絵本の情報交換を行うことで、より良い活動につながっている。		(舞の里小) 活動を広く知ってもらえるよう努める。	

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
2 子どもを対象とした読書活動推進機関、団体との連携と協力	(6)学校と読書ボランティア団体	(古賀中) 他の人に本を読んでもらうことによって読書の幅を広げ、想像力を豊かにし、情緒の安定を図るため (古賀東中) 読書ボランティアと連携し子供たちが読書を楽しむ態度の育成や読書意欲を高めるとともに読書の幅を広げる。	(古賀中) ・全校生徒を対象とした朝読書の時間の読み聞かせ。 ・月に1回特学を対象とした読み聞かせ会 (古賀北中) 各学年、年に5回ほど読みきかせに入ってもらう。 (古賀東中) お話を開催	(古賀中) 1日の始まりに心にゆとりを持つ時間ができた。 普段手に取らないような本を知るきっかけとなった。 (古賀北中) 朝読書では得ることのできない、人に読んでもらう感動や安心感、幸福感を味わい、不読者は読書の楽しさに気づくことができる。 (古賀東中) 読み聞かせされた本に興味を持って同じ作者の本を借りに来る子がいた。	(古賀中) クラス数が多いため、全校まわするのに時間がかかる。 (古賀北中) ボランティアさんの人数調整など、無理がないように実施していきたい。 (古賀東中) 今年度初めて行うので緊張する。 連絡が始め上手くいかなかったため、今後は確認を怠らないようにする	(古賀中) 今年度も継続して実施予定。 (古賀北中) 地域と関わることをこれからも続けていきたい。 (古賀東中) 前年度の担当者のひきつぎをもとにお話し会を計画する。
	(7)学校と保育所(園)・幼稚園	(花見小) 小学校に入ってくる幼児と、児童との関わり。自主性・思いやりの心を育成する。 (古賀東中) 子供の読書活動に関する理解と関心を高めるため各団体と連携・協力を図る	(小野小) 5年生が授業で幼稚園を訪問し遊びや紙芝居・本の読み聞かせを行い長年、交流している。また、入学前の保育園の子どもたちが来校し、図書委員による読み聞かせを楽しんだ。 (花見小) 各学年で保育所や幼稚園で、読み聞かせを行った。 (古賀中) 保育園の中学校見学の際に図書館を開放 (古賀東中) 古賀市立図書館の読書サポーターを通じて小学生、もしくは園児達に読み聞かせを行った。	(小野小) 遊び方の本や読み聞かせの本など毎年図書室で保育園児の年齢合わせて本を選んで練習している。 (花見小) 幼児との交流ができ、喜ばれた。 (古賀中) 保育園児が中学校にある本や設備を見て回り、楽しんでいる。 (古賀東中) 読書サポーターとして参加した子供達は読み聞かせのコツなどを学べた。	(花見小) 特になし。 (古賀東中) 今年度は読書サポーターを集めることが出来なかった。	(小野小) 継続 「入学前の保育園の子どもたちが来校し、図書委員による読み聞かせ」新規 (花見小) 今後も継続して行っていく。 (古賀東中) ポスターと図書だよりだけでは不十分だったので応募用紙も配布する
	(8)家庭・地域と読書ボランティア団体	(文化課) 家庭や地域での読書活動に読書ボランティア団体を活用し、読書活動の充実や推進を図る。	(文化課) ・地域文庫活動 ・読書ボランティア団体によるおはなし会など	(文化課) 地域文庫や読書ボランティア団体の活動により、家庭や地域での読書活動の充実や推進が図られた。		(文化課) 事業の継続

古賀市子ども読書活動 推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
	(9)家庭・地域と保 育所(園)・幼稚園		(古賀東学童保育所) 平成31年2月26日、かちかち会の方々を招いて、紙 芝居をしていただきました。			
	(10)保育所(園)・幼 稚園と読書ボラン ティア団体		(鹿部保育所) ・ゲストティーチャーの先生によるお話し会→手遊び、 わらべうた遊び、絵本など (久保保育園) ・平成30年6月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) ・平成31年2月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) ・令和元年6月 ぐりとぐらの会おはなし会(2～5歳児) (花鶴丘幼稚園) にじのおと 幼稚園の保護者を主としたお母さんたちに年に数回 子ども達への絵本の読み聞かせをしていただしてい る。 1回15分程度で手遊びを含む年齢に応じた絵本3冊。			
計画の柱3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及						
読 1 書 活 総 動 合 の 的 推 な 進 子 ど も の	(1)広報活動の促 進	(文化課) 子どもの読書活動の総合的 な推進のため、子ども及び子 どもを取り巻く大人たちが、読 書の重要性を改めて認識でき るよう啓発活動を行う	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市ホームページ」「教育委 員会フェイスブック」「こがっち」や地域情報誌へのポス ター、案内文書の掲載	(文化課) 事業を適切に広報することにより 市民の関心を高め、参加者を集め ることができた	(文化課) 「図書館ホームページ」の更なる 充実	(文化課) ・「図書館ホームページ」の随時 更新 ・「広報こが」「行事予定表」「市 ホームページ」「教育委員会フェ イスブック」「こがっち」や地域情 報誌へのポスター、案内文書の 掲載

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1	(2)「子ども読書の日」の啓発広報活動	(文化課) 子ども読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める。 (青柳小) ・読書に親しみをもたせ、読書の楽しさを味わわせる。活発に図書館を利用するようにさせるため。 (古賀東小) 子どもの読書活動について関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める (古賀西小) 児童の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、積極的に読書活動を行う意欲を高める。 (花見小) 子ども読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める。	(文化課) 4月23日の子ども読書の日を中心に、おはなし会や読書講座等多様な講座を企画している。 (青柳小) ・春の読書週間として、図書委員と共にイベントを行った。しおりプレゼント、おすすめの本掲示。 (小野小) 子ども読書の日、PTCAから文書を出し、図書委員が子ども読書の日由来や子どもが記入した読書目標を放送した。 (古賀東小) 読書週間「たんぽぽ週間」実施 (古賀西小) ・給食時の放送 ・読書に関する取組 ・3冊貸出(通常2冊) ・家庭読書(うちどく) (花鶴小) 図書委員による全校放送(子ども読書の日について)、担任による読み聞かせ、貸出冊数を増やしたりしている。 (千鳥小) ・全校に放送で周知する ・図書館だよりで周知する ・学習時間を1時間使って全校一斉読書 ・お昼の時間にCDで昔話を放送で流す。 ・1年生2年生に図書委員が1時間お話会をする (花見小) 図書委員会が全校放送を行い、子ども読書の日説明、学年ごとのおすすめの本を紹介した。	(文化課) 毎年多くの参加があり、親子で子どもの読書について理解を深めたり、関心を持つ良い機会となっている。 (青柳小) ・新しく来た先生におすすめの本を紹介してもらうことで、他学年の児童にも先生方を知ってもらえる機会になった。 (小野小) 「おうちで読書のプリント」の提出やお家の方からのコメントが増えて子どもが家庭で取り組んでいるのがわかった。 (古賀東小) 児童が図書館でのルールやマナーを身につけ、図書館に親しんでくれた。 (古賀西小) 春の読書の取組として活動できるのでよい。 (花鶴小) 子ども読書の日について全校に周知することができた。 (千鳥小) ・お話会など子どもは楽しく聞き、一斉読書でも集中して読書している。 (花見小) 少しずつではあるが、保護者の間に子どもの読書活動についての関心と理解を深めることができた。	(文化課) 幼児の参加が多く、小学生が少ない。 (青柳小) ・年度が始まってすぐなので準備が大変。 (古賀東小) 4月のため準備が難しい (古賀西小) 家庭訪問期間中と重なり、休みがないため、毎年日程をずらして取組を行っている。 (千鳥小) 毎年、子ども読書の日に取り組んでいるため、高学年には認知されている。家庭などに広く紹介していきたい。 (花見小) 「子ども読書の日」は学校関係においては定着した感はあるが、未だ一般的には認知度が高いとはいえない。 (舞の里小) 本を借りることで内容については関心はあまりない。	(文化課) ・イベントの内容の精選 ・読書ボランティア団体の協力 (青柳小) ・委員会が発足して、すぐに準備にとりかかる。 (小野小) 継続 (古賀東小) ランチタイムコーナーにて図書委員が「子ども読書の日」について放送をする。 (古賀西小) 朝の活動時間だけでも読書に関する取組を行いたい。 (花見小) 引き続き、啓発広報活動を行っていく。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 総合的な子どもの読書活動の推進	(2)「子ども読書の日」の啓発広報活動	(古賀東中) 子供が読書意欲を喚起し、幅広く読書する能力を育成するため	(古賀中) ・図書館だよりでの紹介。昼の放送で子ども読書の日 の説明を放送。 ・貸出冊数の増加。 (古賀北中) 放送など (古賀東中) ・図書だよりの告知 ・貸出冊数と返却期限日を一定期間増やした	(古賀中) 子ども読書の日に合わせての放送、貸し出し冊数の上限を増加で生徒の読書への意識付になった。 (古賀北中) 図書委員長やボランティアさんの紹介放送、図書館だより等で紹介。その時期はミニ読書週間でにぎわっている。 (古賀東中) 生徒たちに知ってもらう機会づくりが出来た。 本を借りに来る生徒が多くなった	(古賀北中) 不読者にもっとアピール。 (古賀東中) 借りられている小説が多かった。	(古賀中) 来年度も継続予定。 (古賀北中) 読書の幅を広げられるような週間にしたい。 (古賀東中) 小説以外の本も紹介する。
	(3)「家庭読書の日」の設定	(文化課) 家庭読書の啓発に努める。 (花見小) 毎月23日に「家庭読書の日」を設け、親子・家庭読書を推進する。 (古賀東中) 家庭内での家族の連帯感を深め子どもたちが健やかに育む大切な場とする手助けをするための手助け	(文化課) 平成30年度の「古賀市親子読書のつどい」で、九州女子大学非常勤講師による家庭読書のすすめの講演を開催し、子どもの読書意欲を刺激するような本の紹介をしていただいた。 (小野小) 子どもの読書の日と5月の連休に合わせて読書週間に家読(うちどく)を実施している。 (花鶴小) 家庭読書の日はないが、家庭読書推進のため、学習参観日は特別貸出を行っている。(貸出冊数増) (千鳥小) 昨年、9月に1週間家読の取組みを実施 (花見小) 「家庭読書の日」は、図書館入口に掲示して利用を促している。 (古賀北中) 特に実施はしていない。 (古賀東中) ・図書だよりの告知 ・貸出冊数と返却期限日を一定期間増やした	(文化課) 親子読書会の会員を含め、広く市民に家庭読書を知っていただく機会となった。 (小野小) 連休が長いので、家庭でも周知されてきた。 (千鳥小) ・家庭で読書に取り組んだところには好評でした。 (花見小) 当日に本を借りる児童が増加した。 (古賀東中) 生徒たちに知ってもらう機会づくりが出来た。 本を借りに来る生徒が多くなった	(千鳥小) ・家読に取り組まない家庭に対し家読の良さ周知することが必要 (花見小) 低学年の頃から、塾や習い事に通う児童が多いが、家庭で読書の習慣を定着させたいと考える。 (古賀東中) 告知はしているが家庭内で読書活動が普及しているか確認できていない。	(小野小) 継続 (花見小) 引き続き、啓発広報活動を行っていく。 (古賀東中) アンケート調査を行う

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1	総合的な子どもの読書活動の推進	(4)子どもによる自主的な読書活動の取組 (文化課) 子ども同士で自主的に情報交換の場や活動の場を設け、読書活動に取り組めるよう支援する (青柳小) ・自ら考える力をもち、行動できる子どもを育てるため。 (古賀東小) ・本との出会いを通して豊かな心を持ち、表現できる子どもの育成 (古賀西小) ・児童同士で本の紹介し合ったり、活動したりして交流し、読書への関心を高める。 (花見小) 子ども同士で自主的に情報交換の場や活動の場を設け、読書活動に取り組めるよう支援する。 (古賀中) 生徒が主体となって読書活動を行うことにより、生徒の興味関心を高める。 (古賀東中) 子供が読書意欲を喚起し、幅広く読書する能力を育成するため	(文化課) 子ども読書の日イベントでは、中学生読書サポーター本のお楽しみ福袋のおすすめの本の選定もお願いした。 平成30年度および令和元年度は読み聞かせ講座を行い、夏休み小学生むけおはなし会を実施することができた。 (青柳小) ・企画・運営委員会で、「雨の日の過ごし方」で、「図書室に行く」があげられた。(その他の項目と一緒にポスターに描かれ掲示された) (小野小) ・図書ファイルを各自作成し、読書の記録を記入したり、借りた冊数を色で塗ったりして自分で100冊達成できるようにしている。 ・クラスの宿題のほかに図書室でかりた本で自学に取り組んでいる子どももいる。 (古賀東小) 一人一冊貯読通帳を配布 (古賀西小) ・図書委員作成のPOPで本を紹介する。 ・全校朝の会で、図書委員による読書週間の取組の発表 ・図書委員による劇 (花見小) 特になし。 (古賀中) ・図書委員会を通して、朝読書中の本の紹介、おすすめの本の冊子づくり、本のおすすめの文章を募集し図書館だよりでの紹介など (古賀東中) ・掲示物の作成 (図書委員会のおススメの本紹介など) ・貸出、返却などの図書館運営	(文化課) 学校における読書習慣の定着と読書環境の充実を担う古賀市中学生読書サポーターを養成し、子ども同士で読書の楽しさを伝え合う活動を行うことができた。 (青柳小) ・休み時間の過ごし方の選択肢に「図書室に行く」が意識されてよかった。 (小野小) ・毎月、月の初めに前月までの貸出冊数を担任へ知らせているので自分で確認するようになった。 ・子どもが自ら何冊かりて本を読んでいるのか意識するようになった。 (古賀東小) 心に残ったところ、一言感想を書くことで、振り返りができる。 (古賀西小) 児童が紹介した本は、POPの効果もあり、よく借りられた。 読書週間は多くの児童が来館した。 (花見小) 特になし。 (古賀中) 生徒同士で本を勧めあったりなどの活動を行うことによって、読書の輪を広げられた。 (古賀東中) 積極的に読書活動に参加してくれる子が増えた。	(文化課) 学校や地域でのさらなる活動の場の提供をうながす (青柳小) ・来館者は特に増えなかった。 (古賀東小) 貯読通帳を活用していない児童への声かけ (古賀西小) 図書委員以外の児童による自主的な読書活動の取組を行いたい。 (花見小) 特になし。 (古賀中) 学校行事が忙しく、読書週間などの時間がとりにくい。 (古賀東中) 積極的に参加してくれる子としてくれない子の温度差がある。	(文化課) 学校や地域、図書館で周りの子どもに自主的に読書の楽しさや大切さを伝える取組を工夫して行えるよう支援していく (青柳小) ・図書委員から積極的な声かけをする。 (小野小) 継続 (古賀東小) ・図書委員会よりおすすめの本の紹介 ・おまけ券・しおりの追加 (古賀西小) ・ビブリオバトルやアニメーションなど、他の児童も参加できる本の紹介の実施。 (花見小) 特になし。 (古賀中) 今年度も読書週間や冊子作りなど実施予定。 (古賀東中) 何をしてほしいのかを具体的に伝え、こちらから積極的に働きかける

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1	(5)学校職員等の取組 総合的な子どもの読書活動の推進	<u>(文化課)</u> <u>児童生徒の読解力を高める読書指導、情報処理能力を身につけるための調べ学習を指導する学校職員への支援</u> <u>(青柳小)</u> <u>・学校職員が共通理解を持ち、読書活動を推進させるため。</u> <u>(古賀東小)</u> <u>意識的に図書館を活用することで、本に親しみ主体的に読書を楽しむ力を育む。</u> <u>(古賀西小)</u> <u>研修や授業を行い、教職員の図書館教育の理解や協力を図る。</u> <u>(花見小)</u> <u>読書活動の取組み、調べ学習の積極的、計画的な導入。</u>	<u>(文化課)</u> <u>・校長会での利用のお願い、呼びかけ</u> <u>・読書指導、調べ学習のための資料の貸出し</u> <u>(青柳小)</u> <u>・7学年の先生による朝の読み聞かせ。</u> <u>・クラスの係活動で児童がクラス児童へ読み聞かせ。</u> <u>・家庭学習でおすすめ本の感想を書かせて掲示。</u> <u>(小野小)</u> <u>新しく来られた先生の本の紹介を掲示したり、放送している。感想画に取り組むので本の関心が増えた。</u> <u>(古賀東小)</u> <u>1～4年生は国語の授業として図書の時間を週1時間確保。5・6年生に関しても隙間時間を使い図書館を活用</u> <u>(古賀西小)</u> <u>・本の紹介POP作成の授業</u> <u>・読書ボランティアの活用</u> <u>・初任者研修(図書館教育)</u> <u>・百科事典の使い方の授業(3・4年生)</u> <u>(花鶴小)</u> <u>子ども読書の日に担任による読み聞かせを行った。</u> <u>(千鳥小)</u> <u>・司書教諭、司書が連携しながら職員に読書活動について働きかける</u> <u>(花見小)</u> <u>・教室での読み聞かせや本の紹介。</u> <u>・読書ボランティアの活用。</u>	<u>(文化課)</u> <u>団体貸出により、調べ学習等への支援が行えた。</u> <u>(青柳小)</u> <u>・児童の読書意欲につながった。</u> <u>(小野小)</u> <u>先生方の本の紹介は、興味を持って読み、読書週間時、スタンプカードのポイントが増えるので貸出も増えた。</u> <u>(古賀東小)</u> <u>選書が速くなり1時間しっかり読むことで、読書の楽しさを知り確実に読む力がついている。</u> <u>(古賀西小)</u> <u>初任者研修や百科事典の使い方の授業によって、図書館は本を借りだけでなく、他の活用法があることを知ってもらえた。</u> <u>(千鳥小)</u> <u>・読書週間や月間などに、教師のおすすめの本を紹介してもらい、放送し掲示する・児童も興味を持って本を借りたりする</u> <u>(花見小)</u> <u>地域ボランティアと連携して、読書活動を行うことができた。</u> <u>(舞の里小)</u> <u>職員会議などで図書室の利用について周知を行った。</u>	<u>(文化課)</u> <u>・必要な資料の確保</u> <u>・同時期に必要な資料が重なった場合への対応</u> <u>(青柳小)</u> <u>・各学級に任せてしまっている。</u> <u>(古賀東小)</u> <u>担任の先生により、読書力の学級差が大きくなる。</u> <u>(古賀西小)</u> <u>授業と連携した図書館の使い方をもっと紹介していきたい。</u> <u>(花見小)</u> <u>司書教諭の取組時間確保のための時間軽減措置が取られておらず、司書教諭の役割が発揮できていない。働き方改革でさらに減少か。</u>	<u>(文化課)</u> <u>・司書教諭、学校司書が取りまとめた年間の調べ学習・読書指導計画に沿った資料の提供</u> <u>・司書教諭・学校司書と情報交換、連絡がとれるよう司書研修会への定期的な参加</u> <u>(青柳小)</u> <u>・学校全体で取り組む、担任への声かけ。</u> <u>(小野小)</u> <u>継続</u> <u>(古賀東小)</u> <u>司書と連携し、それぞれの子どもに合った本の紹介を行う。</u> <u>(古賀西小)</u> <u>図書館で使えるような単元を調べ、学年主任の先生との相談。</u> <u>(花見小)</u> <u>司書教諭と、学校司書の役割・業務内容の線引きの明確化、連携しての成果の確認報告が必要と思われる。</u> <u>(舞の里小)</u> <u>今後も教員と司書で連携していく。</u>

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1	(5)学校職員等の取組	(古賀中) 情報教育。各教科との連携を行い学習 (古賀東中) 司書教諭が校内推進体制を整備し、教職員、学校司書と連携して読書活動の充実と読書週間の定着を図る	(古賀中) 教科・総合学習での調べ学習での利用。 (古賀北中) 朝読書の際にみんな一緒に読書。おすすめの本を書いてもらう。 (古賀東中) ・古賀市の司書研修の参加 ・授業設計	(古賀中) 国語科、社会科、理科、家庭科などの教科で継続して調べ学習を行った。 (古賀北中) 生徒と一緒に読書をすることで、みんなで本を楽しむことができた。 (古賀東中) ・委員会活動が活発になっている ・関心をドリームステージで生徒の受け入れ	(古賀中) 資料の量や時間の関係で、なかなか調べ学習の時間が取れない。 (古賀北中) 図書購入に参加できる教員が少ない。 (古賀東中) 連携をもう少し深めるべきだと思う	(古賀中) 今後も実施予定。 (古賀北中) 学校・教職員全体で読書指導に取り組みたい。 (古賀東中) こちらから企画を提案する。
1	(6)読書推進活動の奨励	(文化課) 読書ボランティア団体のこれまでの優れた活動に対し、表彰などに推薦し、長年の活動をたたえとともに、今後の活動の意欲を高める。 (花見小) 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及。 (古賀東中) 古賀市で行われている読書活動紹介する場を提供することでかかわるひとの裾野を広げる	(文化課) ・野間読書推進賞への推薦 (小野小) 毎年、全クラスが西日本感想画コンクールに取り組み、応募している。 (花見小) 親子読書会、年3回の読書週間、読書集会を行った。 (古賀東中) 実施されている様々な子ども読書活動を紹介する	(文化課) ・野間読書推進賞(たけのこ文庫) (小野小) H30年1月「第61回西日本読書感想画コンクール学校努力校賞」受賞。 (花見小) お話を集中して聴くことができ、感情を移入して本を楽しむ姿勢が多く見られる。 (古賀東中) 図書館を利用する生徒が興味を持ってくれた。	(花見小) 多くの良書の読書で生活がより豊かなものとなるよう、様々な児童図書が整備される環境づくりを目指す必要がある。 (古賀東中) 興味を持ってくれたが、参加にはこぎつけていない	(文化課) 事業の継続 (小野小) 継続 (花見小) 学校行事の継続。 (古賀東中) 告知だけではなく、興味を持ってくれた生徒に参加を呼びかける

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1	(7)推薦図書の紹介 総合的な子どもの読書活動の推進	(文化課) 子どもの発達段階に応じた図書の紹介 (青柳小) ・読書意欲向上のため。 (古賀東小) 一冊でも多くの良書を知ること で心豊かな感性を育む。 (古賀西小) 児童の読書への興味・関心を高め、読書習慣の定着化を図る。語彙力や読解力を高める。 (花見小) 子どもの発達段階に応じた図書の紹介。	(文化課) ・「赤ちゃん絵本リスト」第6版(平成30年度) ・ヤングアダルトコーナーの見直し、拡充 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介 (青柳小) ・年度始めに先生方おすすめの本を掲示した。 ・司書おすすめの本を紹介した。 ・図書の時間や休み時間に、児童と話しながら児童にあった本をすすめた。 ・長期休み明けの図書の時間には、おすすめの本を発表させた。 (小野小) ・読書感想文・感想画の課題図書、指定図書の購入と本の紹介を行っている。 ・「古賀市内学校司書おすすめ本100冊」と先生おすすめ本紹介。 (古賀東小) 図書館だより、または授業内で紹介を行う。 (古賀西小) ・夏休みの自由研究に役立つ本の紹介。 ・課題図書・指定図書の紹介 ・学年に応じたおすすめの本の紹介(授業・図書館だより) (花鶴小) 教科書に載っている本を中心に学年ごとの「おすすめの本リスト」を配布した。 (千鳥小) 司書部会作成の推薦図書・教師の推薦図書・図書委員の推薦図書などを定期的に紹介している ・図書館便りなどでも紹介 (花見小) 夏休み自由研究の資料、修学旅行の資料、課題図書・指定図書の紹介。	(文化課) ・ブックスタート事業による効果があり、赤ちゃん絵本の需要が増えた ・ヤングアダルトコーナーの拡充、図書資料の充実 ・夏休み自由研究の資料、課題図書・指定図書の紹介により利用者が増えた (青柳小) ・児童の読書意欲につながった。 (小野小) 読書週間でおすすめの本を借りるとポイントが増えるので、おすすめの本に挑戦して貸出が増えた。 (古賀東小) 司書や担任が紹介することで、読書への意識が高まり、幅(種類)が広がった。 (古賀西小) 紹介した本は、興味・関心を示して、よく借りられた。 (花鶴小) 普段は手に取らない本も読んでくれた。 (千鳥小) ・司書部会で作成したものや、教科等研のおすすめの本などを紹介している・教師や図書委員の推薦図書はポップや紹介文、放送などを実施し、掲示している (花見小) 司書おすすめの本リストを作成することにより、読書へのきっかけを与えることができた。本への興味・関心が高まった。 (舞の里小) 学年に応じた本の紹介に役立っている。	(青柳小) ・児童間で推薦図書の紹介の場が少ない。 (古賀東小) 良書であっても古い本は手に取りづらい。 (古賀西小) 学年に応じた本だと読めない児童がいる。(高学年) (花見小) 良書を揃えるよう、充実を図っているが一人でも多くの児童、生徒に関心を持たれるよう紹介していく必要がある。 (舞の里小) 定期的に更新が必要。	(文化課) ・「赤ちゃん絵本リスト」第6版の配布 ・ヤングアダルト資料、自由研究資料の見直し ・市内小・中学校の夏休みの課題を把握して資料の充実を図る (青柳小) ・日常的におすすめ本の紹介ができるコーナーを作る。 (小野小) 継続 (古賀東小) 授業中、1年生は読み聞かせ。他学年はバランスよく、本の紹介を行う。 (古賀西小) 興味が持てない児童のために物語の本だけでなく、科学などいろいろな本を紹介していく。 (花見小) 全校放送、図書館だより、館内の掲示で旬の本をすすめていく。 (舞の里小) 随時取り組んでいく。

古賀市子ども読書活動推進計画の実施体系		目的	内容	成果	課題	今後
1 総合的な子どもの読書活動の推進	(7)推薦図書の紹介	(古賀東中) 子供とその保護者に本を手渡す手段として、推薦コーナーを設置するなどをして推薦図書の紹介に努める。	(古賀北中) 中学生向けのおすすめ本リストの活用。図書館だよりで伝える。 (古賀東中) ・推薦図書コーナー設置 ・毎月発行されるおススメの本紹介の紙を配布する図書だよりで紹介する。	(古賀北中) 図書館だよりやコーナー展示で借りる生徒が増えた。 (古賀東中) 推薦図書の貸出、もしくは手に取る生徒が増えた。	(古賀北中) リストはその都度改訂していく必要がある。 (古賀東中) どの場所が一番目に付くか模索中なため推薦図書のコーナーの場所が一定していないこと	(古賀東中) 推薦図書の展示場所を決める。
	(8)子ども読書活動推進体制の整備	(文化課) 行政機関や学校、図書館、団体などが行う子どもを対象とした読書活動を充実させる (青柳小) ・読書意欲向上のため。 (花見小) 図書館との連絡体制の強化、互いに役割を補い合うことで、豊かな読書環境を提供する。 (古賀東中) 「古賀市子ども読書活動推進計画」を参考に進捗状況を把握を行い、相互に連携・協力できるような推進体制を設備。	(文化課) 平成30年8月に「子ども読書活動調査」を実施した内容を、10月の図書館協議会にて報告し、古賀市内の子ども読書活動の進捗状況の管理を行った。 令和元年度は関係各課に加え、学校・保育園、幼稚園・学童保育所などに調査対象を広げた。 (青柳小) 貸出冊数100冊達成者の表彰をした (花見小) 計画を元に、年間の読書活動を行っている。 (古賀東中) 「古賀市子ども読書活動推進計画」を参考に子供の読書活動を推進する。	(文化課) 第3次古賀市子ども読書活動推進計画に基づき、単年度ごとの進捗状況およびそれぞれの活動の成果と課題を把握することができた (青柳小) ・児童の読書意欲につながった。 (花見小) 様々な活動の成果で、読書への関心は高まっている。 (古賀東中) 図書館運営の指針として使用	(文化課) ・進捗状況の把握 ・課を超えて連携し読書活動を推進していく (青柳小) ・高学年は本の厚みが増し、読み終わるのに時間がかかるため、達成者数が少なかった。 (花見小) 不要なもの、効率などを考慮し、司書教諭とももう少し連携を図りたい。図書館との連絡体制の強化も必要。 (古賀東中) 指針のすべてを達成できていないこと	(文化課) 毎年進捗状況の把握のため各課に呼び掛け子ども読書活動調査を行い、古賀市図書館協議会にて進捗状況の把握を行う 計画策定3年目には読書ボランティア団体などにも調査を行う予定 (青柳小) ・目標冊数を低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊に変えた。(R元年度) (千鳥小) ・図書館・学校・ボランティアと連携しながら推進していきたい。 (花見小) 取組み、開催時期を見直す。 (古賀東中) 出来ることからやっていきたい。例えば掲示や本の展示などに力を入れていきたい。